SONY

4-167-133-**02**(1)

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

STR-DH710

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

この取扱説明書について

- この取扱説明書では、STR-DH710の操作方法を説明しています。本体前面右下のモデルナンバーを確認してください。
- この取扱説明書では、付属のリモコンを使った操作のしかたを説明しています。

商標について

本機はドルビー * デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、"AAC"ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS は登録商標です。また DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。©1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

"x.v.Color"および "x.v.Color"ロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

"ブラビアリンク"および"BRAVIA Link"ロゴ は、ソニー株式会社の登録商標です。

"プレイステーション"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

目次

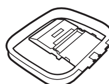
その他

同梱品

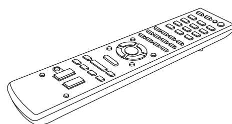
- 取扱説明書（本書）（1）
- 接続・設定ガイド（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- カスタマー登録（1）
- 安全のために（1）
- FM ワイヤーアンテナ（1）



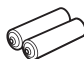
- AM ループアンテナ（1）



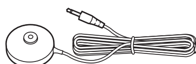
- リモコン（RM-AAU080）（1）



- 単 3 形乾電池（2）

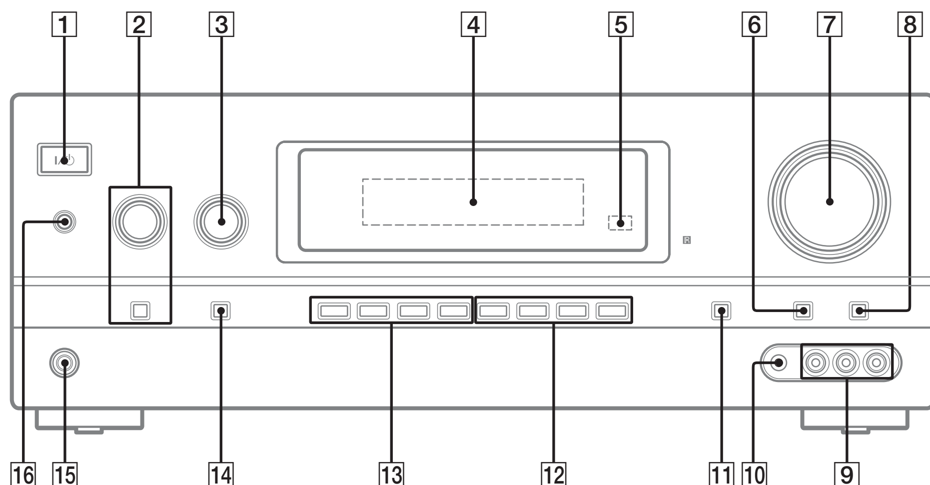


- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）



各部の名前と働き

本体前面



1 I/⏻（電源オン／スタンバイ）（29、49 ページ）

2 TONE +/– つまみ、TONE MODE（70 ページ）

3 INPUT SELECTOR つまみ（37 – 43、57、60 ページ）

4 表示窓（6 ページ）

5 **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。

6 DIMMER（73 ページ）

7 MASTER VOLUME つまみ（36、37 ページ）

8 MUTING（37 ページ）

9 VIDEO 2 IN 端子（27 ページ）

10 AUTO CAL MIC 端子（31 ページ）

11 DISPLAY（38 ページ）

12 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE、MUSIC（44 ページ）

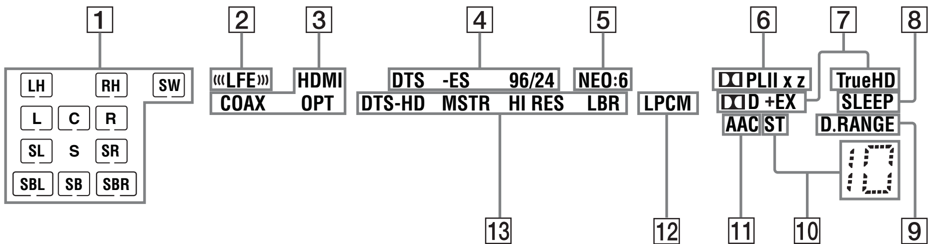
13 TUNING MODE、TUNING +/–、MEMORY/ENTER（40 ページ）

14 INPUT MODE（57 ページ）

15 PHONES 端子（80 ページ）

16 SPEAKERS（29 ページ）

表示窓に点灯する項目と働き

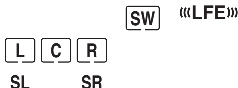


名称と働き

1 再生チャンネル表示
現在本機が出力しているチャンネルを表示します。
文字（L、C、R など）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。

SW	サブウーファー
LH	フロントハイ左
RH	フロントハイ右
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンド成分）

例：
スピーカーパターン：3/0.1
記録形式：3/2.1
サウンドフィールド：A.F.D. AUTO



名称と働き

2 LFE
入力信号に LFE（重低音効果）のチャンネルが存在しているときや、実際に LFE 信号の音が再生されているときに「LFE」の文字が点灯します。

3 入力表示
現在、本機に入力されている信号を表示します。

HDMI
以下の場合に点灯します。
– HDMI IN 端子につないだ機器が認識されているとき（21 ページ）
– HDMI TV OUT 端子につないだテレビからオーディオリターンチャンネル（ARC）の信号が入力されているとき（56 ページ）

COAX
INPUT MODE を「AUTO」に設定していて、デジタル信号が COAXIAL 端子から入力されているときに点灯します（57 ページ）。

OPT
INPUT MODE を「AUTO」に設定していて、デジタル信号が OPTICAL 端子から入力されているときに点灯します（57 ページ）。

4 **DTS（-ES）表示**
DTS または DTS-ES 信号を入力しているときに点灯します。

DTS
DTS 信号をデコードしているときに点灯します。
DTS-ES
DTS-ES 信号をデコードしているときに点灯します。
DTS 96/24
DTS 96 kHz/24 ビット信号をデコードしているときに点灯します。

ご注意
DTS フォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODE が「AUTO」になっていることを確認してください（57 ページ）。

5 **NEO:6**
DTS Neo:6 Cinema/Music 処理を行っているときに点灯します（45 ページ）。

6 **ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張します。

DD PL	Dolby Pro Logic
DD PL II	Dolby Pro Logic II
DD PL IIx	Dolby Pro Logic IIx
DD PL IIz	Dolby Pro Logic IIz

ご注意
スピーカーパターンの設定によっては点灯しません。

7 **ドルビーデジタルサラウンド表示**
ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DD D	Dolby Digital
DD D EX	Dolby Digital Surround EX
DD D+	Dolby Digital Plus
DD TrueHD	Dolby TrueHD

ご注意
ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODE が「AUTO」になっていることを確認してください（57 ページ）。

8 **SLEEP**
スリープタイマーが働いているときに点灯します（39 ページ）。

名称と働き

9 **D.RANGE**
ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（66 ページ）。

10 **チューナー表示**
ラジオを聞いているときに点灯します。

ST
ステレオ放送

プリセット番号

ご注意
プリセット番号の表示は、選んだ放送局によって切り換わります。ラジオ放送局の登録について詳しくは、43 ページをご覧ください。

11 **AAC**
MPEG-2 AAC 信号が入力されたときに点灯します。

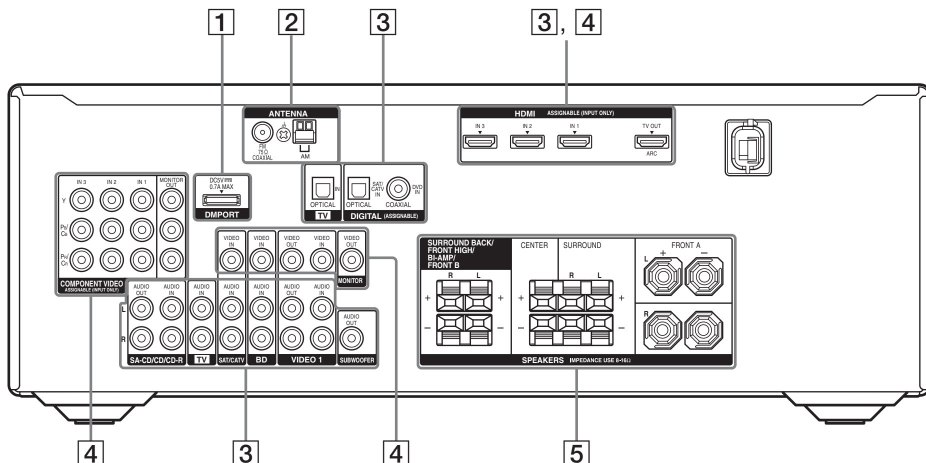
ご注意
MPEG-2 AAC は、アルゴリズム：(LC（Low Complexity)）にのみ対応しています。

12 **LPCM**
リニア PCM 音声信号が入力されたときに点灯します。

13 **DTS-HD 表示**
DTS-HD 信号をデコードしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。

DTS-HD MSTR
DTS-HD Master Audio
DTS-HD HI RES
DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD LBR
DTS-HD Low Bit Rate Audio

本体後面



1 DMPORT（60 ページ）

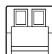


デジタルメディアポート端子
（DMPORT 端子）

2 アンテナ入力部（28 ページ）



FM75Ω 同軸アンテナ端子



AM アンテナ端子

3 音声入出力部

デジタル入出力端子（18、21、24、25、26 ページ）



HDMI 入出力端子



OPTICAL IN（光）
デジタル音声入力端子



COAXIAL IN（同軸）
デジタル音声入力端子

アナログ入出力端子（16、18、19、24、26 ページ）



白（L）



赤（R）

音声入出力端子



黒　音声出力端子

4 映像入出力部 *
画質は接続する端子によって異なります。

デジタル入出力端子
（18、21 ページ）

HDMI 入出力端子

コンポーネント映像入出力端子（18、24、25、26 ページ）

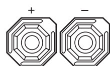
緑（Y）
青（PB/CB）
赤（PR/CR）
Y、PB/CB、PR/CR 入出力端子

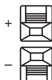
コンポジット映像入出力端子
（18、24、26、27 ページ）

黄　映像入出力

高画質

5 スピーカー出力部（16 ページ）



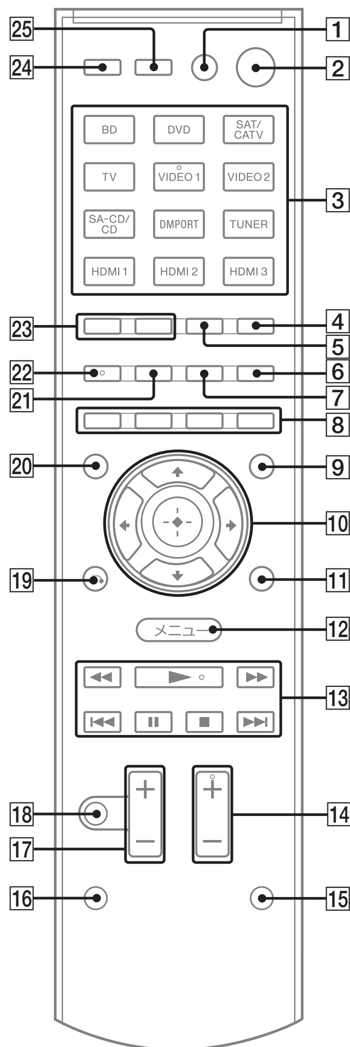


* お持ちのテレビを HDMI TV OUT 端子または MONITOR OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（18、21 ページ）。

リモコン

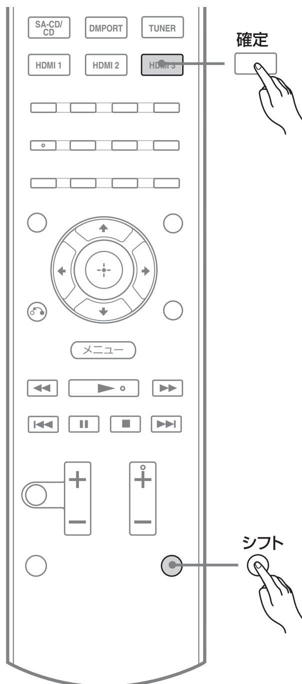
付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録されているソニー製機器などを操作できます。

RM-AAU080

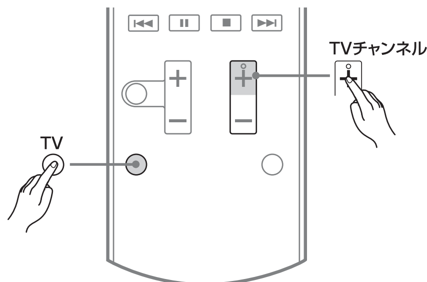


シフトボタン（15）と TV ボタン（16）の使いかた

シフトボタン（15）
シフトボタン（15）を押しながら、ピンクで印字されたボタンを押します。
例：シフトボタン（15）を押しながら、確定ボタン（3）を押す。



TV ボタン（16）
TV ボタン（16）を押しながら、黄色で印字されたボタンを押してテレビを操作します。
例：TV ボタン（16）を押しながら、TV チャンネル + ボタン（3）を押す。



本機を操作するには

名称と機能	
2	**電源** b)（電源オン／スタンバイ） 本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。 **スタンバイ中に消費電力を抑えるには** 「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定します（65 ページ）。
3	**入力切り換えボタン**（VIDEO 1[a]） 使用する機器を選びます。入力切り換えボタンを押すと、本機の電源が入ります。
	数字ボタン c)（5[a]） FM/AM チューナーのプリセット番号や、周波数の入力ができます。
	確定 c) 選択を確定します。
4	**ダイレクトチューニング** 数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。
5	**メモリー** ラジオを聴いてるときに放送局を登録します（プリセット）。
6	**画面表示** 表示窓に表示される情報を切り換えます。
9	**アンプメニュー** アンプメニューを表示窓に表示させます。
10	⊕、↑/↓/←/→ ↑/↓/← /→ を押して項目を選び、⊕を押して選択を確定します。

名称と機能
12 **メニュー／ホーム** [d] アンプメニューを表示窓に表示させます。
13 **選局 +/–** 放送局を選局します。
プリセット +/– 登録した放送局を選びます。
14 **サウンドフィールド +[a]/–** サウンドフィールドを選びます。
17 **音量 +/–** すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。
18 **消音** 一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合は再度消音ボタンを押します。
19 **戻る** ↶ 前のメニューに戻ります。

[a]数字ボタンの 5/VIDEO 1 および音声切換、► 、TV チャンネル／サウンドフィールドの + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。
[b]AV 電源（1）と電源（2）を同時に押すと、本機とつないだ機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
[c]シフト（15）を押しながらボタンを押してください。
[d]アンプメニュー（9）を押してボタンを有効にしてください。

ソニー製テレビを操作するには

TV（16）を押しながら、黄色で印字された使いたい機能のボタンを押してください。

名称と機能
1 **TV 電源（電源オン／スタンバイ）** テレビの電源を入／切します。
3 **数字ボタン（5[a]）** テレビのチャンネルを選びます。
確定 選択を確定します。
4 **CS** 110 度 CS デジタル放送に切り換えます（押すたびに CS1/CS2 が切り換わります）。
5 **BS** BS デジタル放送に切り換えます。
6 **画面表示** テレビの情報を表示します。
d（連動データ放送）[b] デジタル放送の連動データ放送をオン／オフします。
8 **カラーボタン** テレビ画面に表示されたガイドに従って操作してください。
11 **ツール／オプション** テレビのオプションメニューを表示します。
12 **メニュー／ホーム** テレビのメニューを表示します。
14 **TV チャンネル +[a]/–** 次（+）、または前（–）のチャンネルに切り換えます。
17 **音量 +/–** 音量を調節します。
18 **消音** テレビの消音機能を有効にします。
19 **戻る** ↶ テレビの前のメニューに戻ります。
20 **番組表** アナログ放送や、デジタル放送を視聴しているときに、番組表を表示します。
22 **音声切換** [a] お好みの音声信号に切り換えます。
23 **地上デジタル** 地上デジタル放送に切り換えます。
地上アナログ 地上アナログ放送に切り換えます。
24 **シアター** シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した映像設定を自動的に行います。
25 **入力切換** 入力を切り換えます（テレビ、またはビデオ）。

[a]数字ボタンの 5/VIDEO 1 および音声切換、► 、TV チャンネル／サウンドフィールドの + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。
[b]シフト（15）を押しながらボタンを押してください。

次のページへつづく

他のソニー製品を操作するには

名称		ブルーレイディスク、DVD プレーヤー／レコーダー	衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナー	ビデオデッキ	CD プレーヤー
1	AV 電源[b]	電源	電源	電源	電源
3	数字ボタン[c] (5[a])	トラック	チャンネル	チャンネル	トラック
	確定[c]	確定	確定	確定	確定
	クリア[c]	クリア	–	–	–
6	画面表示	画面表示	画面表示	画面表示	画面表示
	d[c]	連動データ表示	–	–	–
7	映像切換	アングル切換	–	–	–
8	カラーボタン	メニュー、ガイド	–	–	–
10	⊕	確定	確定	確定	–
	↑/↓/←/→	選択	選択	選択	–
11	ツール／オプション	オプションメニュー	オプションメニュー	–	–
12	メニュー／ホーム	メニュー	メニュー	メニュー	–
13	◀◀/▶▶[d]	前／次のトラックをサーチ	–	早戻し／早送り	早戻し／早送り
	▶[a] [d]（再生）	再生	–	再生	再生
	⏮/⏭[d]	トラックをスキップ	–	トラックをスキップ	トラックをスキップ
	❚❚[d]（一時停止）	一時停止	–	一時停止	一時停止
	■[d]（停止）	停止	–	停止	停止
19	戻る ↩	メニューを閉じる	メニューを閉じる	–	–
20	番組表	番組表	番組表	–	–
21	字幕	字幕選択	字幕選択	–	–
22	音声切換[a]	音声選択	音声選択	–	–
23	トップメニュー	トップメニュー／ディスクメニュー	–	–	–
	ポップアップ／メニュー	BD-ROM のポップアップメニュー／ディスクメニュー	–	–	–

a) 数字ボタンの 5/VIDEO 1 および音声切換、▶ 、TV チャンネル／サウンドフィールドの + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

b) AV 電源（1）と電源（2）を同時に押すと、本機とつないだ機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。入力切換ボタン（3）を押すたびに AV 電源（1）の機能は自動的に切り換わります。

c) シフト（15）を押しながらボタンを押してください。

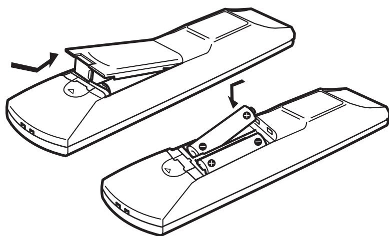
d) これらのボタンを使って、デジタルメディアポートアダプターの操作ができます。ボタンの機能について詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 機器によっては、使えない機能もあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。お持ちの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。

リモコンに電池を入れる

⊕ と ⊖ の向きを合わせて、リモコンに、単 3 乾電池（付属）2 本を入れます。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使用途中の乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と、種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや腐食を防ぐため、乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（74 ページ）。
- リモコンで本機を操作できなくなったら、新しい乾電池に交換してください。

接続する

1: スピーカーを設置する

本機では最大 7.1 チャンネル（スピーカー 7 本とサブウーファー 1 本）のスピーカーシステムを構成できます。

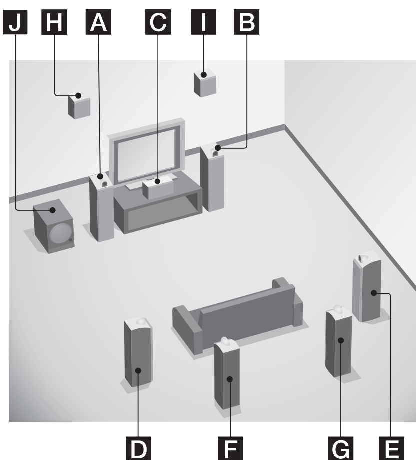
映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、5 本のスピーカー（フロントスピーカー：2 本、センタースピーカー：1 本、サラウンドスピーカー：2 本）とサブウーファーが必要です（5.1 チャンネル）。

サラウンドバックスピーカー 1 本（6.1 チャンネル）またはサラウンドバックスピーカー 2 本（7.1 チャンネル）を追加することによって、サラウンド EX フォーマットの DVD やブルーレイソフトを忠実に再現できるようになります。

PLIIz モード（45 ページ）でフロントハイスピーカー 2 本（7.1 チャンネル）を追加することによって、垂直方向を含む、三次元的な音の表現を楽しむことができます。

次のページへつづく

スピーカーの設置例



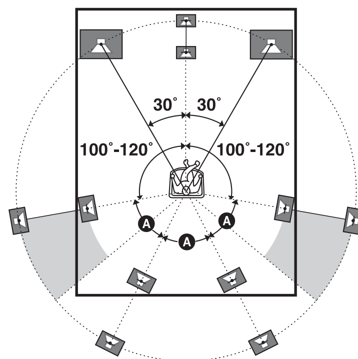
A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サラウンドバックスピーカー（左）
G サラウンドバックスピーカー（右）
H フロントハイスピーカー（左）
I フロントハイスピーカー（右）
J サブウーファー

ご注意

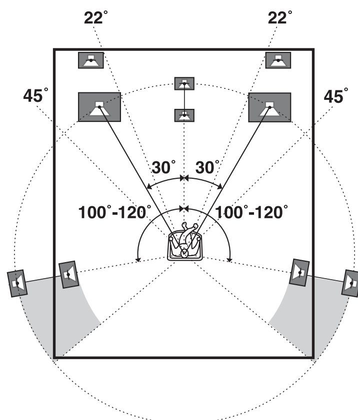
フロントハイスピーカーとサラウンドバックスピーカーを同時に使用することはできません。

ちょっと一言

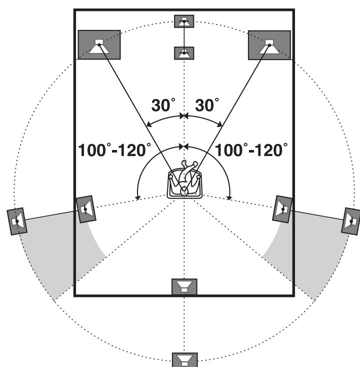
- 7.1 チャンネルのスピーカーシステムにサラウンドバックスピーカーを 2 本つなぐ時は、全ての A の角度を同じにします。



- 7.1 チャンネルのスピーカーシステムにフロントハイスピーカーを 2 本つなぐ時は、リスニングポジションから 22° ～ 45° の角度に設置します。フロントスピーカーから最低 1 メートルは高い位置に設置します。



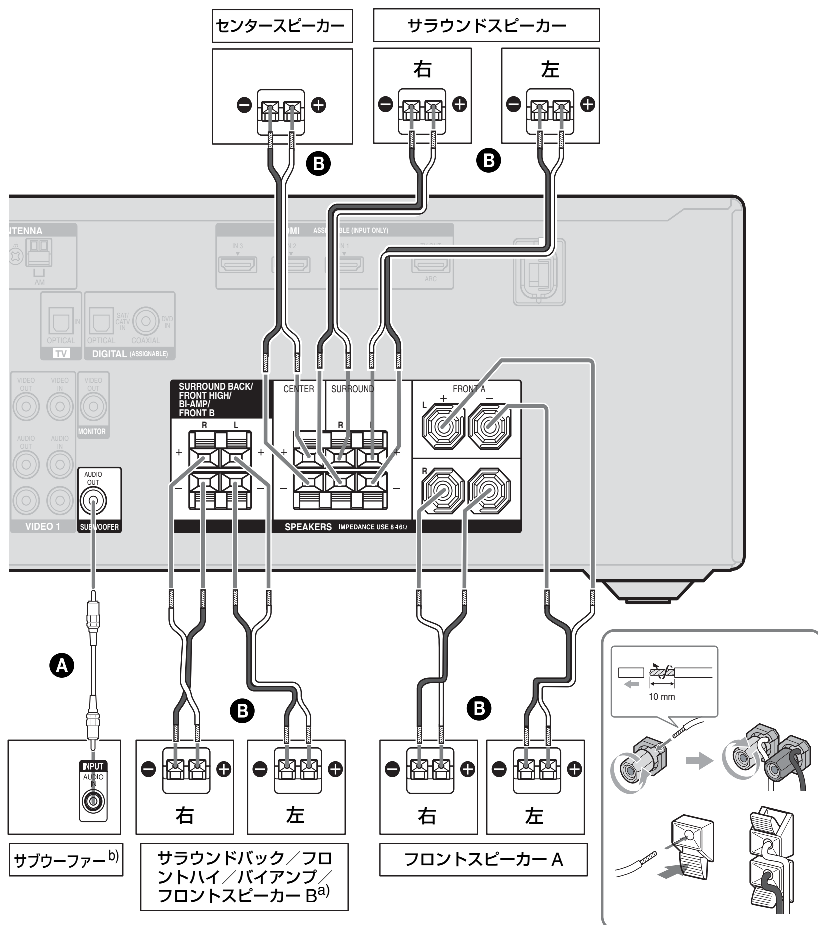
- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。



- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

2: スピーカーを接続する

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



A モノラル音声コード（別売）
B スピーカーコード（別売）

[a]SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B 端子接続時のご注意

– サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、L 端子につないでください。
– サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーを使わずに、追加のフロントスピーカーシステムを使う場合は、この端子につないでください。SPEAKER メニューの「SB ASGN」を「SPK B」に設定してください（69 ページ）。本体の SPEAKERS ボタン（29 ページ）でフロントスピーカーシステムを選べます。
– サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーを使わない場合、この端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用（17 ページ）に使用することができます。

[b]オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお持ちの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

ご注意

- 電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。
- スピーカーの設置と接続が終わったら、SPEAKER メニューでスピーカーパターンを選んでください（67 ページ）。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーを使わない場合、SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B 端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

フロントスピーカー（右）　フロントスピーカー（左）

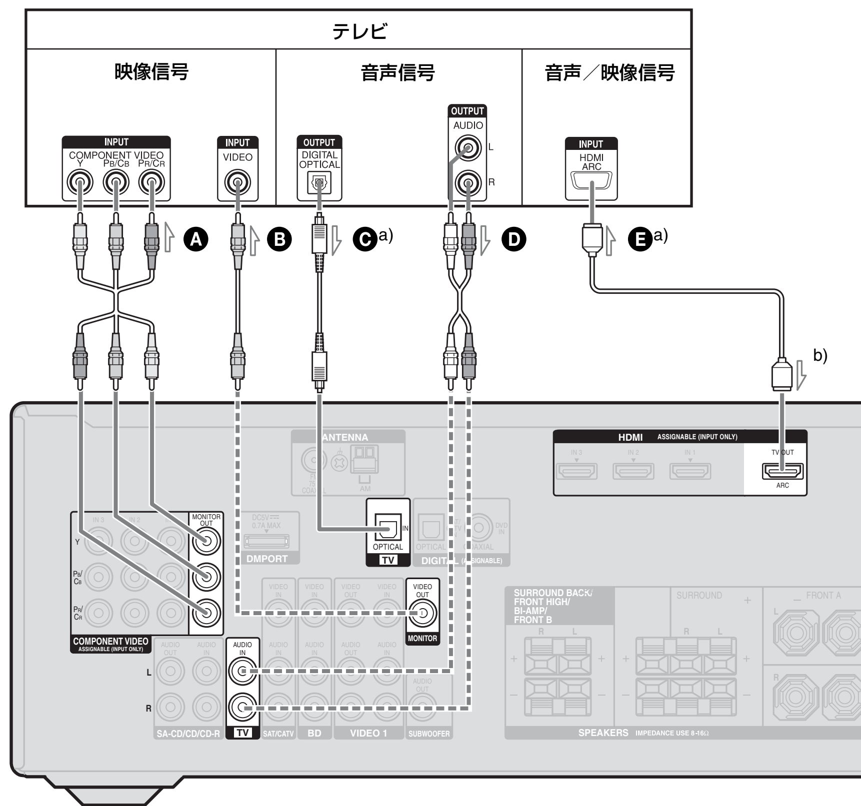
フロントスピーカーの Lo（または Hi）側を本機の SPEAKERS FRONT A 端子に、フロントスピーカーの Hi（または Lo）側を本機の SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B 端子につなぎます。

このとき、スピーカーに付属されている Hi/Lo のショート金具は必ず外してください。本機の故障の原因となります。

バイアンプ接続後、SPEAKER メニューの「SB ASGN」を「BI-AMP」に設定してください（60 ページ）。

3: テレビを接続する

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



A コンポーネント映像コード（別売）
B 映像コード（別売）
C 光デジタル音声コード（別売）
D 音声コード（別売）
E HDMI ケーブル（別売）
ソニー製の HDMI ケーブルを推奨します。

—— おすすめの接続
----- その他の接続

a) 本機につないだスピーカーからテレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を楽しむには、C か E につないでください。テレビは音量を最小にするか、消音機能で消音してください。

b) お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応しているときは、テレビの音声が HDMI TV OUT 端子を通して、本機につないだスピーカーに出力されます。この機能を使うには、HDMI メニューの「ARC」を「ARC ON」に設定してください（56 ページ）。

ご注意

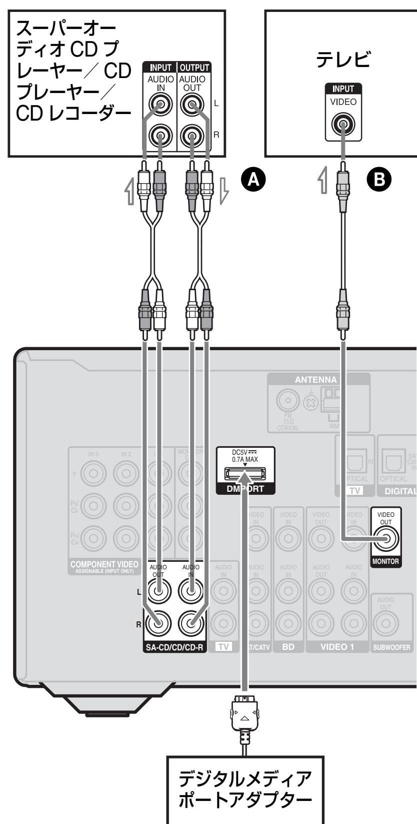
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI TV OUT 端子や MONITOR OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- テレビとアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。
- 光デジタル音声コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

本機のデジタル音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

4a: オーディオ機器を接続する

スーパーオーディオ CD プレーヤーや CD プレーヤー、CD レコーダー、デジタルメディアポートアダプターの接続例です。ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



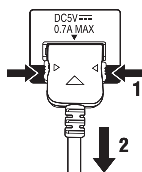
Ⓐ 音声コード（別売）
Ⓑ 映像コード（別売）

次のページへつづく

デジタルメディアポートアダプター接続時のご注意

- 本機をデジタルメディアポートアダプター以外につながないでください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼ マークの向きを合わせてください。
- コネクターはしっかりとまっすぐに差し込んでください。
- デジタルメディアポートアダプターのコネクターは壊れやすいため、本機を設置または移動するときは、取り扱いに充分注意してください。

デジタルメディアポートアダプターを DMPORT 端子から取りはずすときは



両側を押しながら、引き抜いてください。

4b: 映像機器を接続する

接続できる機器

下記の表を参照し、お持ちの機器を接続してください。

接続機器	説明ページ
ブルーレイディスクプレーヤー *、ブルーレイディスクレコーダー *	21、24
“プレイステーション 3” *	21
DVD プレーヤー *	21、25
DVD レコーダー *	21、25、27
衛星放送チューナー *、ケーブルテレビチューナー *	21、26
ビデオデッキ	27
ビデオカメラ／テレビゲーム機など	27

* HDMI 端子のある映像機器には HDMI 接続を推奨します。

お持ちのテレビを HDMI TV OUT 端子または MONITOR OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（18 ページ）。

デジタル機器をつなぐ端子が足りないときは

「他の入力からの音声／映像を楽しむ」（58 ページ）をご覧ください。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機器にある端子に合わせて接続のしかたを選んでください。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- 光デジタル音声コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

本機のデジタル音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

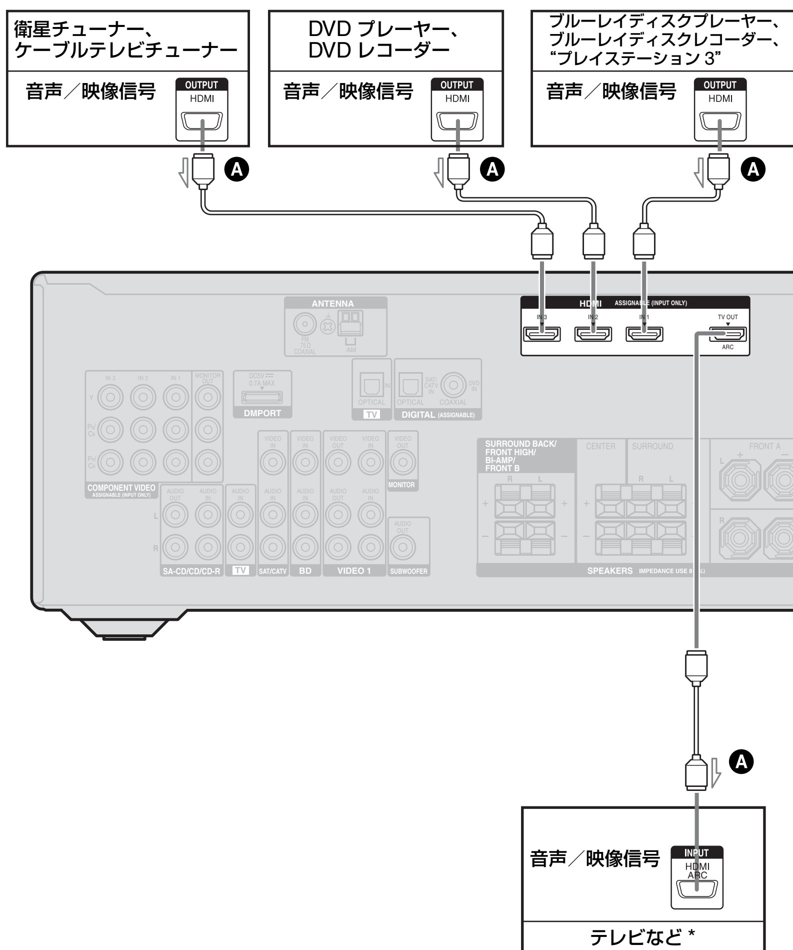
HDMI 端子のある機器を接続する

HDMI とは High-Definition Multimedia Interface の略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

HDMI 接続でできること

- 本機では HDMI で転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子から出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM、AAC の各フォーマットに対応しています。
- 本機は、マルチチャンネルリニア PCM（サンプリング周波数 192 kHz 以下）で、8 チャンネルまでのデジタル音声信号を、HDMI を使った伝送で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、x.v.Color、3D 伝送に対応しています。
- 本機は HDMI 機器制御機能に対応しています。詳しくは「“ブラビアリンク”機能を使う」（50 ページ）をご覧ください。

次のページへつづく



Ⓐ HDMI ケーブル（別売）
ソニー製の HDMI ケーブルを推奨します。

* 本機とテレビの音声接続について詳しくは 18 ページをご覧ください。

ご注意

- つないだ機器を操作できるように、リモコンの HDMI1-3 入力ボタンを初期設定から変更してください。詳しくは、「入力切り換えボタンの割り当てを変更する」（74 ページ）をご覧ください。
- 表示窓に表示される HDMI 入力の名前を変えることができます。詳しくは、「入力に名前をつける」（38 ページ）をご覧ください。

接続ケーブルについて

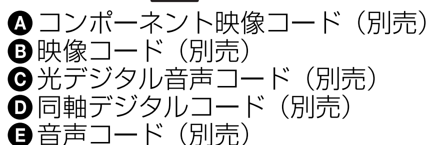
- High Speed HDMI ケーブルをご利用ください。Standard HDMI ケーブルの場合、1080p や Deep Color、3D の映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けた HDMI ケーブルまたはソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI 変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI 変換ケーブルで DVI-D 機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル音声コードでつなぎ、AUDIO メニューの「A. ASSIGN」の設定を行ってください（71 ページ）。

HDMI 端子の接続のご注意

- HDMI IN 端子に入力された音声信号は SPEAKERS 端子と HDMI TV OUT 端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN 端子に入力された映像信号は、HDMI TV OUT 端子からのみ出力されます。VIDEO OUT 端子と MONITOR OUT 端子からは出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMI メニューの「AUDIO. OUT」を「TV+AMP」に設定してください（72 ページ）。マルチチャンネルのディスクなどを再生できないときは、「AMP」に設定してください。ただし、「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。
- 「PASS.THRU」を「OFF」に設定している場合、電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。
- スーパーオーディオ CD の DSD 信号は入出力されません。
- スーパーオーディオ CD のマルチチャンネル／ 2 チャンネルの再生エリアの音声信号は出力されません。
- HDMI 端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMI ケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機の HDMI TV OUT 端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を 720p/1080i 以上に設定してください。
- マルチチャンネルリニア PCM を楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。
- 各 HDMI 機器は、表記されている HDMI の Version で定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えば、Version 1.4 対応機器がすべてオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応しているわけではありません。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3D 映像を楽しむには、3D 表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、プレイステーション 3 など）と本機を HDMI ケーブルでつなぎ、3D メガネを装着したうえで、3D 対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D 表示できない場合があります。本機が対応する 3D 映像フォーマットをご確認ください（86 ページ）。

ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーを接続する

ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの接続例です。



A コンポーネント映像コード（別売）
B 映像コード（別売）
C 光デジタル音声コード（別売）
D 同軸デジタルコード（別売）
E 音声コード（別売）

—— おすすめの接続
----- その他の接続

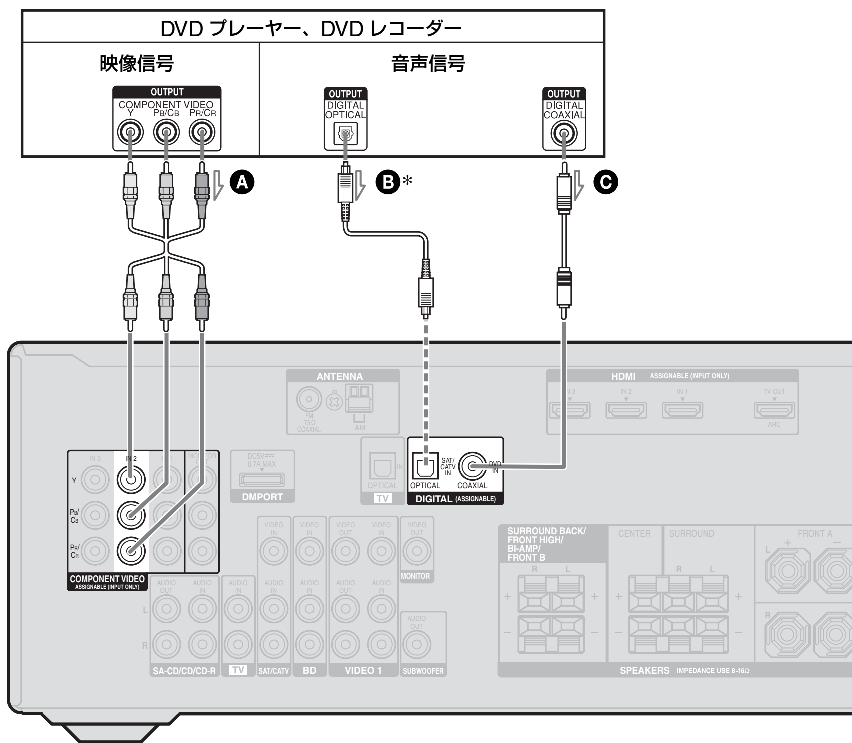
* OPTICAL/COAXIAL 端子のある機器をつなぐときは、AUDIO メニューの「A. ASSIGN」を設定してください（71 ページ）。

ご注意

- ブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように、リモコンの BD 入力ボタンを初期設定から変更してください。詳しくは、「入力切り換えボタンの割り当てを変更する」（74 ページ）をご覧ください。
- 表示窓に表示される BD 入力の名前を変えることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（38 ページ）をご覧ください。
- COMPONENT VIDEO IN 1 端子の初期設定では、ブルーレイディスクプレーヤーやブルーレイディスクレコーダーが割り当てられています。ブルーレイディスクプレーヤーやブルーレイディスクレコーダーを COMPONENT VIDEO IN 2 や IN 3 端子につなぐ場合、VIDEO メニューの「V. ASSIGN」を設定してください（71 ページ）。
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、ブルーレイディスクプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

DVD プレーヤー、DVD レコーダーを接続する

DVD プレーヤー、DVD レコーダーの接続例です。



Ⓐ コンポーネント映像コード（別売）
Ⓑ 光デジタル音声コード（別売）
Ⓒ 同軸デジタルコード（別売）

—— おすすめの接続
----- その他の接続

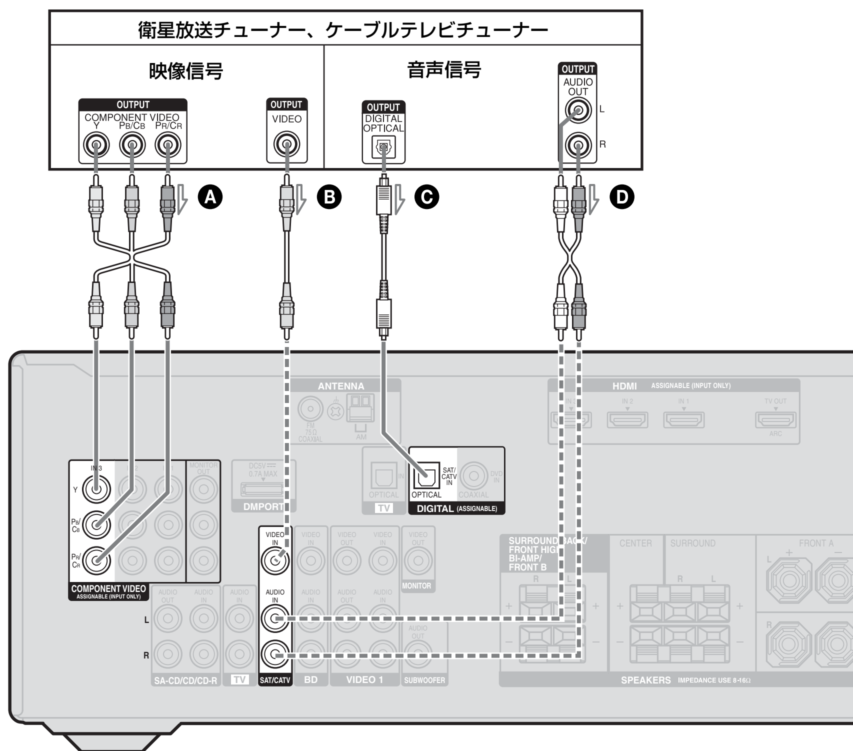
* OPTICAL 端子のある機器をつなぐときは、AUDIO メニューの「A. ASSIGN」を設定してください（71 ページ）。

ご注意

- DVD プレーヤーを操作できるように、リモコンの DVD 入力ボタンを初期設定から変更してください。詳しくは、「入力切り換えボタンの割り当てを変更する」（74 ページ）をご覧ください。
- 表示窓に表示される DVD 入力の名前を変えることができます。詳しくは、「入力に名前をつける」（38 ページ）をご覧ください。
- COMPONENT VIDEO IN 2 端子の初期設定では、DVD プレーヤーや DVD レコーダーが割り当てられています。DVD プレーヤーや DVD レコーダーを COMPONENT VIDEO IN 1 や IN 3 端子につなぐ場合、VIDEO メニューの「V. ASSIGN」を設定してください（71 ページ）。
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVD プレーヤーまたは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。



A コンポーネント映像コード（別売）
B 映像コード（別売）
C 光デジタル音声コード（別売）
D 音声コード（別売）

——— おすすめの接続
- - - - - その他の接続

ご注意

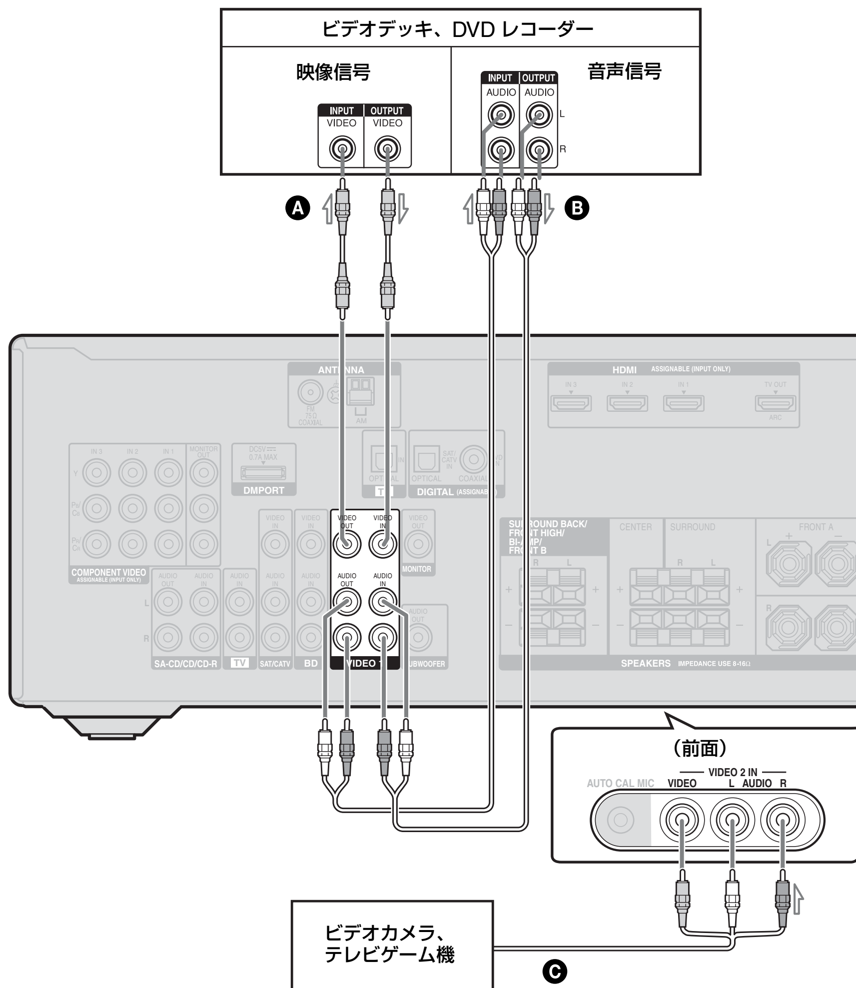
COMPONENT VIDEO IN 3 端子の初期設定では、衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーが割り当てられています。衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーをCOMPONENT VIDEO IN 1 や IN 2 端子につなぐ場合、VIDEO メニューの「V. ASSIGN」を設定してください（71 ページ）。

アナログ映像／音声端子のある機器を接続する

ビデオデッキや DVD レコーダーなどアナログ端子のある機器の接続例です。

ご注意

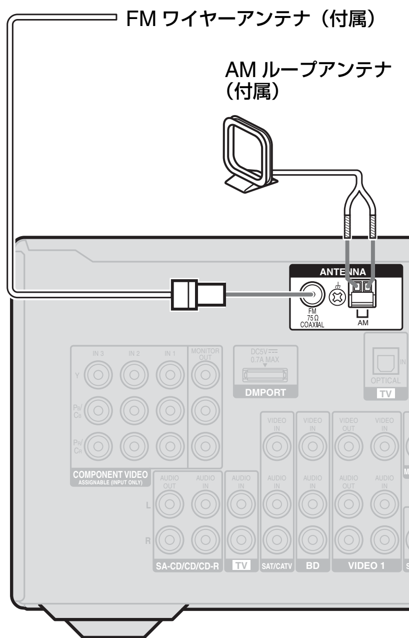
- DVD レコーダーを操作できるように、リモコンの VIDEO 1 入力ボタンを初期設定から変更してください。詳しくは、「入力切り換えボタンの割り当てを変更する」（74 ページ）をご覧ください。
- 表示窓に表示される VIDEO 1 入力の名前を変えることができます。詳しくは、「入力に名前をつける」（38 ページ）をご覧ください。



Ⓐ映像コード（別売）
Ⓑ音声コード（別売）
Ⓒ音声／映像コード（別売）

5: アンテナをつなぐ

付属の AM ループアンテナおよび FM ワイヤーアンテナをつなぎます。アンテナをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



ご注意

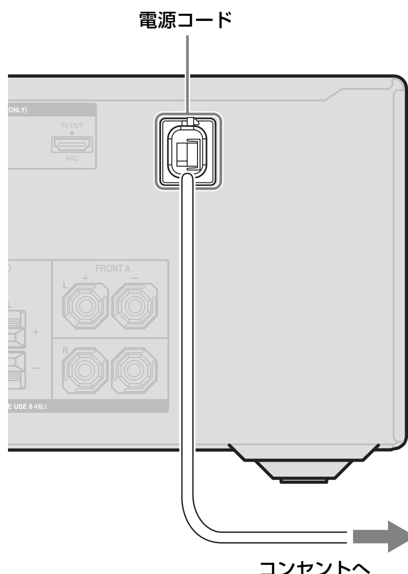
- 雑音の原因になるため、AM ループアンテナは本機や他の AV 機器の近くに置かないでください。
- FM ワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FM ワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に置いてください。

6: 電源コードをつなぐ

電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。

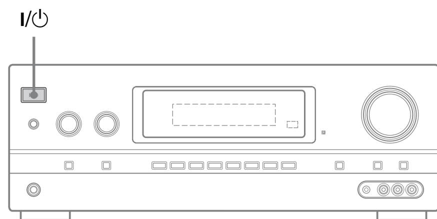
ご注意

- 電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。
- 電源コードはしっかりと差し込んでください。



本機を初期設定状態にする

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
本体のボタンを使って操作してください。



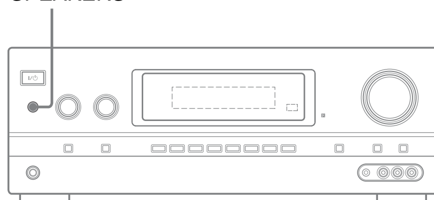
1 **I/⏻ を押して本機の電源を切る。**

2 **I/⏻ を５秒ほど押し続ける。**

表示窓に「CLEARING」と表示された後、「CLEARED」が表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選べます。
本体のボタンを使って操作してください。



SPEAKERS をくり返し押して、使用するフロントスピーカーシステムを選ぶ。

使用するフロントスピーカーをつないだ端子	表示
SPEAKERS FRONT A 端子	SPK A
SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/ FRONT B 端子	SPK B*
SPEAKERS FRONT A 端子と SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/ FRONT B 端子の両方（パラレル接続）	SPK A+B*

* 「SPK B」または「SPK A+B」を選ぶには、SPEAKER メニューの「SB ASGN」を「SPK B」に設定してください（69 ページ）。

スピーカーからの出力をやめるには

「SPK OFF」が表示されるまで SPEAKERS をくり返し押す。

ご注意

ヘッドホンをつないでるときは、設定は有効になりません。

自動でスピーカー設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。

- スピーカの有無 a)
- スピーカーのレベル
- スピーカーまでの距離 a)b)
- スピーカーのサイズ a)
- スピーカーの極性
- 周波数特性 a)c)

a)アナログダイレクト機能を選んでいる場合は、測定結果は反映されません。
b)96 kHz 以上のサンプリング周波数を受信している場合、測定結果は反映されません。
c)48 kHz 以上のサンプリング周波数を受信している場合、測定結果は反映されません。

D.C.A.C. 機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。

なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「スピーカーのレベルを調節する （TEST TONE）」（36 ページ）をご覧ください。

測定の前に

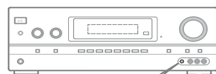
測定の前に、以下についてご確認ください。

- スピーカーの設置と接続をします（13、16 ページ）。
- AUTO CAL MIC 端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。
- バイアンプ接続をしているときは、SPEAKER メニューの「SB ASGN」を「BI-AMP」に設定してください（69 ページ）。
- FRONT B 端子に接続したスピーカーを使うときは、SPEAKER メニューの「SB ASGN」を「SPK B」に設定してください（69 ページ）。
- スピーカーの出力が「SPK OFF」に設定されていないことを確認してください。
- ヘッドホンの接続をはずしてください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に障害物を取り除いてください。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- リスニングポジションを決めてください。リスニングポジションの測定結果はポジション 1 ～ 3 に登録できます（34 ページ）。

ご注意

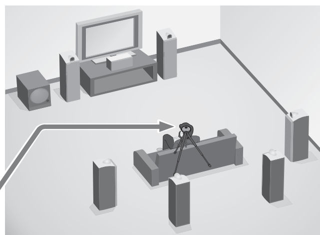
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。

1: 測定の準備をする



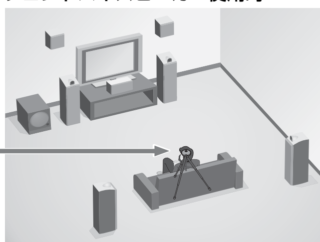


サラウンドバックスピーカー使用時



測定用
マイク

フロントハイスピーカー使用時 *



* フロントハイスピーカーを使用するスピーカーパターンを選んでください（67 ページ）。

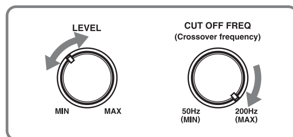
1 **測定用マイク（付属）を本機のAUTO CAL MIC 端子につなぐ。**

2 **マイクを設置する。**

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

アクティブサブウーファーの設定について

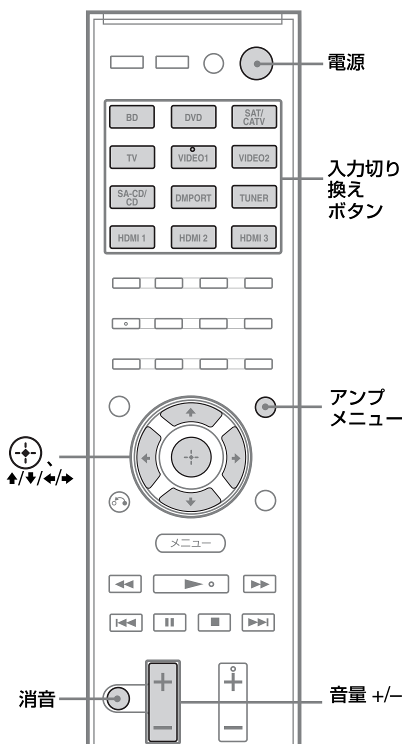
- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、MASTER VOLUME つまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



ご注意

お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

2: 測定する



次のページへつづく

1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓ をくり返し押して「A. CAL」を選び、⊕ または → を押す。**

「START」が表示窓に表示されます。

3 **⊕ を押す。**

5 秒後に測定が始まります。表示窓に測定開始までの残り時間が表示されます。

測定時間は約 30 秒です。測定が始まると、以下の項目が表示されます。

測定項目	表示
スピーカーの有無	TONE
スピーカーのレベル、距離、周波数特性	T. S. P.*
サブウーファーのレベル、距離	WOOFER*

* 測定中は、測定しているスピーカーの表示が点灯します。

ちょっと一言

- 測定中に有効な操作は電源の入／切の操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないか、自動音場補正機能が実行されないことがあります。

測定を中止するには

測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。

– リモコンの電源ボタン、または本体の I/⏻ を押す。
– リモコンの入力切り換えボタンを押す、または本体の INPUT SELECTOR つまみを回す。
– ボリュームを変更する。
– リモコンの消音または本体の MUTING を押す。
– 本体の SPEAKERS を押す。
– ヘッドホンをつなぐ。

3: 測定結果を確認／保存する

1 **測定結果を確認する。**

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果［表示］	説明
正常に測定が終了したとき [SAVE.EXIT]	手順 2 へ進んでください。
正常に測定できなかったとき [E-■■■ ■■]	「エラーコードが表示されたときは」（33 ページ）をご覧ください。

2 **測定結果の内容を見る。**

↑/↓ をくり返し押して項目を選び、⊕を押す。

項目と説明
EXIT 測定した設定を保存しないで終了します。
LVL INFO. スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
DIST.INFO. スピーカーの距離の測定結果を表示します。
P. INFO. 各スピーカーの位相（正相 / 逆相）を表示します。「「P. INFO.」を選んだときは」（34 ページ）をご覧ください。
WARN CHK 測定結果の注意事項を表示します。「「WARN CHK」を選んだときは」（34 ページ）をご覧ください。
SAVE.EXIT 測定した設定を保存し、終了します。
RETRY 再測定します。

3 **測定結果を保存する。**

手順 2 で「SAVE.EXIT」を選びます。

表示窓に「COMPLETE」が表示され、測定結果にポジション番号が割り当てられて登録されます。

4 補正タイプを選ぶ。

↑/↓ をくり返し押して補正タイプを選び、⊕を押す。

補正タイプと説明
FULL.FLAT 各スピーカーの周波数特性を平らにします。
ENGINEER ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
FRONT.REF すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF 自動音場補正のイコライザーをオフにします。

5 測定が終わったら、測定用マイクを抜く。

ご注意

スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

ちょっと一言

スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。
測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、SPEAKER メニュー（67 ページ）で設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

エラーコードが表示されたときは

1 エラーの原因を調べる。

表示と説明
E - ■■■* 31 SPEAKERS が「SPK OFF」に設定されています。他の設定に変更して（29 ページ）、再測定してください。
E - ■■■* 32 どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。測定用マイクが正しく接続されているのにエラーコードが表示された場合は、測定用マイクが破損しているか、正しく接続されていないことが考えられます。
E - ■■■* 33 • フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが 1 本しか接続されていません。 • 測定用マイクが接続されていません。 • 左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。 • サラウンドスピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーが接続されています。サラウンドスピーカーを SPEAKERS SURROUND 端子に接続してください。 サラウンドバックスピーカーが SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B R 端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを 1 つだけつなぐときは、SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B L 端子につないでください。 • フロントハイスピーカー（左）またはフロントハイスピーカー（右）のどちらかが接続されていません。

* ■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

F	フロント
S	サラウンド
SB	サラウンドバック
FH	フロントハイ

2 再測定する。
⊕ を押す。「RETRY Y」が表示されたら、⊕ を押す。

3 「3: 測定結果を確認／保存する」（32 ページ）の手順をやり直す。

測定結果を調べる

「P. INFO.」を選んだときは

各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

1 ⬆/⬇ をくり返し押して調べたいスピーカーを選ぶ。

表示と説明
■■■* IN 正相です。
■■■* OUT 逆相です。スピーカーの+ / −端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても「■■■ OUT」が表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。

2 ⊕ を押して「3: 測定結果を確認／保存する」の手順 2 に戻る（32 ページ）。

「WARN CHK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

表示と説明
W - ■■■* 40 測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
W - ■■■* 41 測定用マイクからの入力が過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
W - ■■■* 42 本機の音量が過大です。 周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
W - ■■■* 43 サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARN 注意事項の情報はありません。

* ■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

FL	フロント左
FR	フロント右
CNT	センター
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
LH	フロントハイ左
RH	フロントハイ右
SW	サブウーファー

「3: 測定結果を確認／保存する」の手順 2 に戻るには

⊕を押す。

ちょっと一言

サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

AUTO CAL メニューについて

AUTO CAL メニューを使って、自動音場補正機能をお好みにあわせて設定したり、名前をつけたりすることができます。
メニューから「A. CAL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「設定メニューの使いかた」（61 ページ）および「メニュー一覧」（62 ページ）をご覧ください。

■ START

■ CAL TYPE*

それぞれのリスニングポジションに合わせて自動音場補正のタイプを選びます。
詳しくは、「3: 測定結果を確認／保存する」の手順 4 をご覧ください（32 ページ）。

* 自動音場補正の設定が登録されている場合のみ、選べます。

■ POSITION

測定位置や視聴環境、測定条件ごとに、ポジション 1、2、3 として 3 つのパターンを登録することができます。
ポジション番号を選ばない場合は、自動音場補正の測定結果が自動的に POS 1（初期設定）になります。

複数のリスニングポジションを登録するには

お好みのリスニングポジションを選び、測定結果を登録できます。

1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「A. CAL」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「POSITION」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して測定結果を登録するリスニングポジション（POS 1、2、3）を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して「START」を選び、⊕を押して測定を実行する。
詳しくは、「2: 測定する」（31 ページ）をご覧ください。
手順 4 で選んだリスニングポジションに測定結果が登録されます。

6 手順 1 から 5 をくり返し、他のリスニングポジションに測定結果登録する。

登録したリスニングポジションを選ぶには

1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「A. CAL」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「POSITION」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押してリスニングポジション（POS 1、2、3）を選び、⊕を押す。
リスニングポジションが選ばれます。

メニューを消すには

アンプメニューを押す。

■ NAME IN（名前の入力）

リスニングポジションに名前を付けることができます。

1 名前を付けたいリスニングポジション（POS 1、2、3）を選ぶ。

2 ↑/↓ をくり返し押して「NAME IN」を選び、⊕または → を押す。
カーソルが点滅し、文字が選べるようになります。

3 ↑/↓ で文字を選び、←/→ でカーソルを移動する。

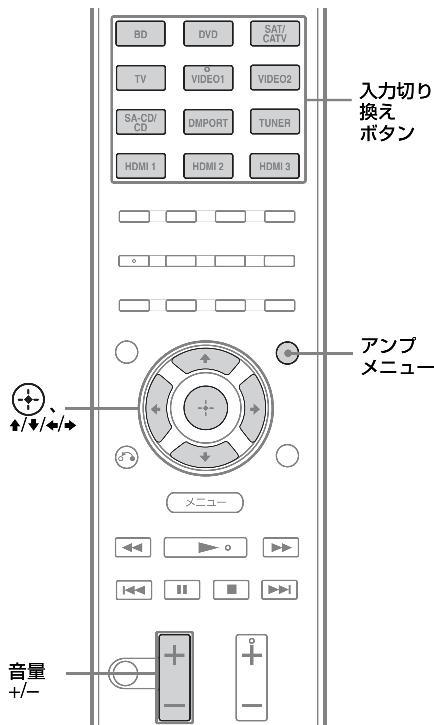
間違えて入力したときは
←/→ で訂正したい文字を点滅させ、↑/↓ で正しい文字を選ぶ。

ちょっと一言
- ↑/↓ で文字の種類を選べます。押すたびに、以下の順で切り換わります。
アルファベット（大文字）→ 数字 → 記号
- 空白を入れるには、文字を選ばすに → を押します。

4 ⊕を押す。
入力した名前が保存されます。

スピーカーのレベルを調節する（TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルを調節できます。



1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓ をくり返し押して「LEVEL」を選び、⊕または → を押す。**

3 **↑/↓ をくり返し押して「T. TONE」を選び、⊕を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して「AUTO ■■■*」を選ぶ。**

各スピーカーからテストトーンが順番に出力されます。

* ■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては「AUTO ■■■」を選んでもすべてのスピーカーからテストトーンが出力されないことがあります。

5 **それぞれのスピーカーから同じレベルのテストトーンが出力されるよう、LEVEL メニューを使って調節する。**

詳しくは、LEVEL メニュー（66ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンの音量＋ / –、または本体の MASTER VOLUME つまみで調節します。
- スピーカーのレベルとバランスを調整している間は、調整した値が表示窓に表示されます。

6 **手順 1 から 4 をくり返し、「OFF」を選ぶ。**

入力切り換えボタンのどれかを押しても、テストトーンを止めることができます。

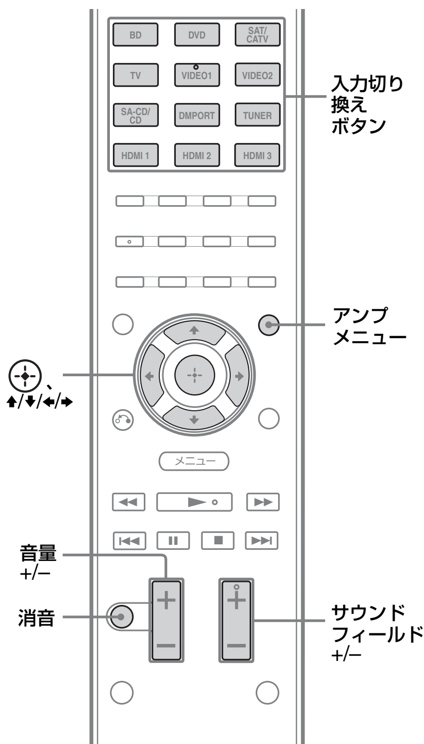
テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

テストトーンが表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーから出るときは

接続したスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

再生する



1 つないだ機器の電源を入れる。

2 本機の電源を入れる。

3 入力切り換えボタンを押して、再生したい機器を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。
選んだ入力が表示窓に表示されます。

4 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

5 音量 +/– を押して、音量を調節する。

本体の MASTER VOLUME つまみを使って操作することもできます。

6 サウンドフィールド +/– を押して、サウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶ。

本体の 2CH/A.DIRECT または A.F.D.、MOVIE 、MUSIC を使って操作することもできます。
詳しくは 44 ページをご覧ください。

音を一時的に消すには

リモコンの消音または本体の MUTING を押します。
以下の操作をすると消音機能は解除されます。

- リモコンの消音か本体の MUTING を押す。
- 音量を上げる。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正機能を使って測定する。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

入力に名前をつける

入力に 8 文字までの名前を付けて（TUNER を除く）、本機の表示窓に表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。

1 入力切り換えボタンを押して、名前を付けたい入力を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。

2 アンプメニューを押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「SYSTEM」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「NAME IN」を選び、⊕または → を押す。

カーソルが点滅し、文字を選べるようになります。

5 ↑/↓ で文字を選び、←/→ でカーソルを移動する。

間違えて入力したときは

←/→ で訂正したい文字を点滅させ、↑/↓ で正しい文字を選ぶ。

ちょっと一言

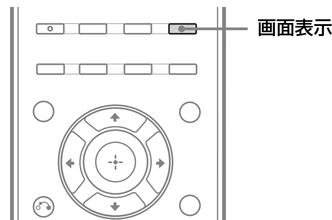
- ↑/↓ で文字の種類を選べます。押すたびに、以下の順で切り換わります。
アルファベット（大文字）→ 数字 → 記号
- 空白を入れるには、文字を選ばすに → を押します。

6 ⊕を押す。

入力した名前が保存されます。

表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドの情報などを確認できます。



画面表示をくり返し押す。

本体の DISPLAY を使うこともできます。
ボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

FM または AM ラジオ以外の入力を選んでいるとき

入力に付けた名前 *→ 選ばれている入力 → 現在のサウンドフィールド → 音量 → ストリーム情報

FM または AM ラジオを受信しているとき

登録した放送局 *→ 周波数 → 現在のサウンドフィールド → 音量

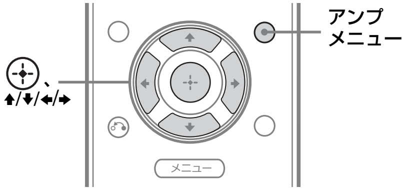
* 名前は、入力や放送局に名前を付けてある場合のみ表示されます（38、43 ページ）。名前が空白だったり、入力名と同じだったりした場合は表示されません。

ご注意

言語によっては文字やマークが表示されないことがあります。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓ をくり返し押して「SYSTEM」を選び、⊕または → を押す。**

3 **↑/↓ をくり返し押して「SLEEP」を選び、⊕または → を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して設定時間を選び、⊕を押す。**

時間表示は次のように切り換わります。

OFF ←→ 0-30-00 ←→ 1-00-00 ←→ 1-30-00 ←→ 2-00-00

スリープタイマーが働いているあいだは、表示窓の「SLEEP」表示が点灯します。

ちょっと一言

- スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、手順 1 から 3 をくり返します。表示窓に残り時間が表示されます。
- 本機の電源が切れる 1 分前からカウントダウンが表示されます。

録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書もご覧ください。

CD-R に録音する

本機を使って CD-R に録音できます。お持ちの CD レコーダーの取扱説明書もご覧ください。

1 **再生機器を接続した入力の入力切り換えのボタンを押す。**

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。

2 **再生機器を準備する。**

例：録音したい放送局にあわせる（40 ページ）。

3 **録音機器を準備する。**

空の CD-R を CD レコーダーに入れ、録音レベルを調節する。

4 **録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

ご注意

サウンド調整は、SA-CD/CD/CD-R AUDIO OUT 端子から出力される音声に影響しません。

基本操作

録画する

1 再生機器を接続した入力の入力切り換えのボタンを押す。

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。

2 再生機器を準備する。

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 録画機器の準備をする。

（VIDEO 1 につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

4 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。

ご注意

- 録画防止機能のあるソースは録画できません。
- アナログ出力端子（録画用）からはアナログ入力信号のみ出力されます。
- HDMI 音声は録音できません。

ラジオを楽しむ

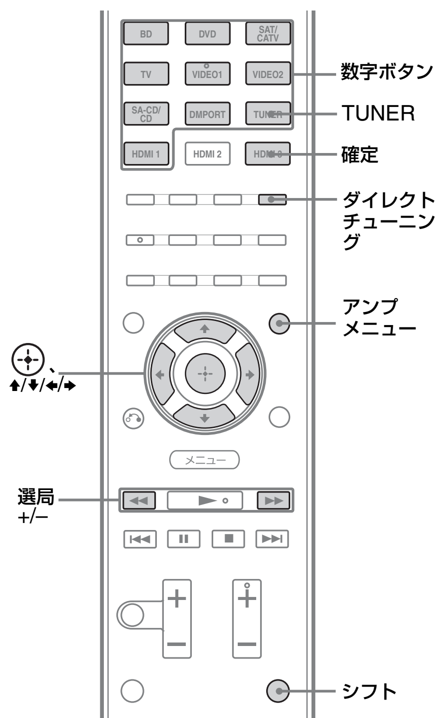
FM/AM ラジオを聞く

内蔵チューナーを使って、FM/AM ラジオを聞くことができます。操作の前に、本機にアンテナが接続されていることを確認してください（28 ページ）。

ちょっと一言

ダイレクト選局の周波数の間隔は以下の通りです。

- FM 放送　100 kHz
- AM 放送　9 kHz



自動で受信する（自動受信）

1 **TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。**

2 **選局＋または選局－を押す。**

選局＋を押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。選局－を押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。
放送局を受信すると自動的にスキャンを停止します。

本体で操作するには

1 INPUT SELECTORつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ。
2 TUNING MODEをくり返して押して、「AUTO」を選ぶ。
3 TUNING +/– を押す。

FM放送の受信状態が良くないときは

FM放送の受信状態が良くないときや、表示窓の「ST」が点滅しているときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 アンプメニューを押す。
2 ↑/↓をくり返し押して「TUNER」を選び、⊕または→を押す。
3 ↑/↓をくり返し押して「FM MODE」を選び、⊕または→を押す。
4 ↑/↓をくり返し押して「MONO」を選び、⊕を押す。

ステレオ受信に戻すには、手順1から4をくり返し、手順4で「STEREO」を選びます。

手動で受信する（ダイレクト選局）

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。

1 **TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。**

本体のINPUT SELECTORつまみを使って操作することもできます。

2 **ダイレクトチューニングを押す。**

3 **シフトを押しながら、数字ボタンを押して聞きたい放送局の周波数を入力する。**

例1: FM 88.00 MHz
8 → 8 → 0と選ぶ
例2: AM 1,350 kHz
1 → 3 → 5 → 0と選ぶ

4 **シフトを押しながら、確定を押す。**

本体のMEMORY/ENTERを使うこともできます。

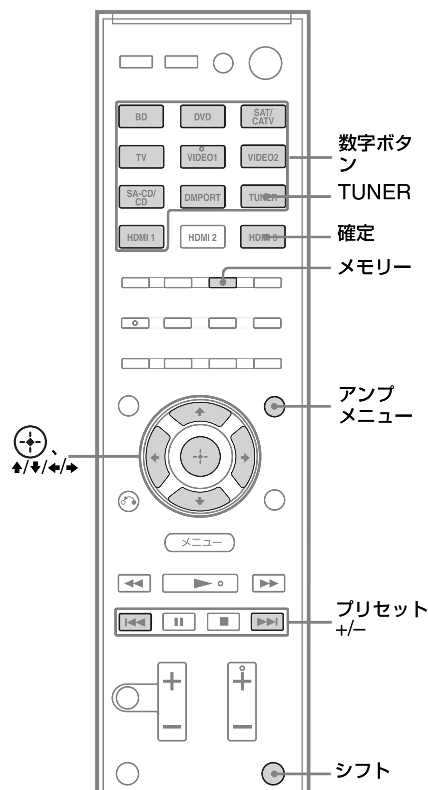
ちょっと一言
AM放送を受信するときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。正しい周波数が入力されていない場合は、手順2～4をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

FM/AM 放送局を登録する

FM 局を 30 局と AM 局を 30 局登録できます。よく聞く放送局を簡単に受信できるようになります。



1 **TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。**

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。

2 **登録したい放送局を自動（41 ページ）または手動（41 ページ）で受信する。**

必要に応じて FM 放送局の受信モードを切り換えてください（41 ページ）。

3 **メモリーを押す。**

本体の MEMORY/ENTER を使うこともできます。

4 **シフトを押しながら、数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶ。**

プリセット+またはプリセット－を押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

5 **シフトを押しながら、確定を押す。**

本体の MEMORY/ENTER を使うこともできます。
選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

6 **手順 1 から 5 をくり返して、他の放送局を登録する。**

登録した放送局を聞く

1 **TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。**

2 **プリセット +またはプリセット –をくり返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。**

ボタンを押すたびに、プリセット番号は以下のように切り換わります。



シフトを押しながら数字ボタンを押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選んだあと、シフトを押しながら確定を押してください。

本体のボタンで操作するには

1 INPUT SELECTOR つまみを回して、FM または AM を選ぶ。
2 TUNING MODEをくり返して押して、「PRESET」を選ぶ。
3 TUNING +/– を押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

登録した放送局に名前を付ける

1 **TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。**

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って操作することもできます。

2 **名前を付けたい放送局を受信する（43 ページ）。**

3 **アンプメニューを押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して「TUNER」を選び、⊕または → を押す。**

5 **↑/↓ をくり返し押して「NAME IN」を選び、⊕または → を押す。**

カーソルが点滅し、文字を選べるようになります。

6 **↑/↓ で文字を選び、←/→ でカーソルを移動する。**

間違えて入力したときは

←/→ で訂正したい文字を点滅させ、↑/↓ で正しい文字を選ぶ。

ちょっと一言

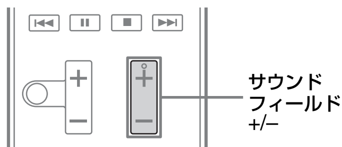
- ↑/↓ で文字の種類を選べます。押すたびに、以下の順で切り換わります。
  アルファベット（大文字）→ 数字 → 記号
- 空白を入れるには、文字を選ばずに → を押します。

7 **⊕を押す。**

入力した名前が保存されます。

サウンドフィールドを選ぶ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドからお好みのサウンドフィールドを選ぶだけでマルチチャンネルのサラウンド効果を楽しめます。



サウンドフィールド +/– をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

本体の 2CH/A.DIRECT または、A.F.D.、MOVIE 、MUSIC を使って操作することもできます。

2 チャンネル音声モード

音楽ソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2 チャンネル音声出力に切り換えられます。

■ 2CH ST.（2 Channel Stereo）

フロント L/R の 2 本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは音が出ません。
標準的な 2 チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2 チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。LFE 信号は再生されません。

■ A. DIRECT（Analog Direct）

選んでいる入力の音声を、2 チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

ご注意

- ヘッドホンがつながれていると、表示窓に「HP DIR」が表示されます。
- DVD や DMPORT、HDMI1-3 入力を選んでいるときは、アナログダイレクト機能は選べません。

オートフォーマットダイレクト（A.F.D.）モード

オートフォーマットダイレクト（A.F.D.）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2 チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。

■ A.F.D. AUTO（A.F.D. Auto）

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。

■ MULTI ST.（Multi Stereo）

2 チャンネルの信号に対し、L/R 成分をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては出力しないことがあります。

映画用モード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。

■ C.ST.EX A（Cinema Studio EX A DCS）
ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ C.ST.EX B（Cinema Studio EX B DCS）
ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ C.ST.EX C（Cinema Studio EX C DCS）
ソニー・ピクチャーズエンタテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

■ V. M. DIM（V. Multi Dimension DCS）
1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。

■ PLII MV（Pro Logic II Movie）
ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。
また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。

■ PLIIX MV（Pro Logic IIx Movie）
ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビープロロジックIIのムービーモードやドルビーデジタルの5.1チャンネルを、7.1チャンネルで再生することができます。

■ PLIIZ（Pro Logic IIz）
ドルビープロロジックIIzの処理を行います。この設定は、5.1チャンネルから7.1チャンネルへの拡張性に柔軟性を与え、上方にスピーカーを追加することで、立体感や広がりを与えます。

■ NEO6 CIN（Neo:6 Cinema）
DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。

音楽用モード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋でコンサートホールの臨場感を再現できます。

■ HALL（コンサートホール）
コンサートホールの音響特性を再現します。

■ JAZZ（ジャズクラブ）
ジャズクラブの音響を再現します。

■ CONCERT（ライブハウス）
300席あるライブハウスの音響を再現します。

■ STADIUM（スタジアム）
屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■ SPORTS（スポーツ）
スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■ PORTABLE（ポータブルオーディオ）
ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。

次のページへつづく

■ PLII MS（Pro Logic II Music）
ドルビープロロジック II のミュージックモード処理を行います。
CD など通常のステレオ処理された音声の再生に適しています。

■ PLIIX MS（Pro Logic IIx Music）
ドルビープロロジック IIx のミュージックモード処理を行います。
CD など通常のステレオ処理された音声の再生に適しています。

■ PLIIZ（Pro Logic IIz）
ドルビープロロジック IIz の処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルから 7.1 チャンネルへの拡張性に柔軟性を与え、上方にスピーカーを追加することで、立体感や広がりを与えます。

■ NEO6 MUS（Neo:6 Music）
DTS Neo:6 のミュージックモード処理を行います。2 チャンネルの音源を 7 チャンネルにデコードします。CD など通常のステレオ録音の再生に適しています。

ヘッドホンで聞いている場合には

以下のサウンドフィールドは、本機にヘッドホンをつないでいるときのみ設定できます。

■ HP 2CH（ヘッドホン 2 チャンネル）
ヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます（アナログダイレクトを除く）。通常の 2 チャンネルステレオ音声は一切サウンドフィールドの処理を行わず 2 チャンネル（ステレオ）で音を出します。マルチチャンネルのサラウンド音声は 2 チャンネルにダウンミックスして出力されます。ただし、LFE 信号は出力されません。

■ HP DIR（ヘッドホンダイレクト）
音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。

サブウーファーを接続したときは
サブウーファーから出力される低域効果音である LFE 信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「NEO6 CIN」、「NEO6 MUS」では生成されません。
ドルビーデジタルの低音リダイレクト機能を最大限に活かすため、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高域に設定することをおすすめします。

サウンドフィールドについてのご注意
- スピーカーパターンの設定によっては、機能しないサウンドフィールドがあります。
- 映画用と音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  – サンプリング周波数が 48 kHz 以上の信号を受信している。
  – 5.1 チャンネル 以上の信号を受信している（PLIIz を除く）。
- PLII や PLIIx、PLIIz は同時に設定できません。
  – PLIIx はスピーカーパターンがサラウンドバックスピーカーを使用する設定のときのみ有効です。
  – PLIIz はスピーカーパターンがフロントハイスピーカーを使用する設定のときのみ有効です。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。

• 音楽用サウンドフィールドを選んでいるときは、SPEKAER メニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に LFE 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、「PORTABLE」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。

ちょっと一言

• DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
• ドルビープロロジック IIx やドルビープロロジック IIz 処理は、マルチチャンネル信号が入力されているときに有効です。
• DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS 技術を利用しています。DCS について詳しくは、「用語集」（75 ページ）をご覧ください。

映画用 / 音楽用のサウンドフィールドを解除するには

サウンドフィールド+ / −をくり返し押して「2CH ST.」または「A.F.D. AUTO」を選びます。
本体の 2CH/A.DIRECT をくり返し押して「2CH ST.」を選ぶか、本体の A.F.D. をくり返し押して「A.F.D. AUTO」を選ぶこともできます。

ブルーレイディスクプレーヤーやその他の次世代ハードディスクプレーヤーを接続するときは

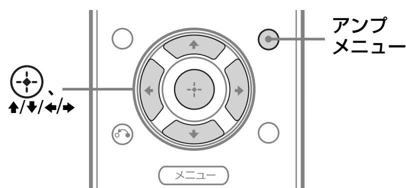
本機がデコードできる音声フォーマットは、再生機器とつないだデジタル音声入力端子によって異なります。
本機は以下のフォーマットに対応しています。

音声フォーマット	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital	5.1	○	○
Dolby Digital EX	6.1	○	○
Dolby Digital Plus [a]	7.1	×	○
Dolby TrueHD [a]	7.1	×	○
DTS	5.1	○	○
DTS-ES	6.1	○	○
DTS 96/24	5.1	○	○
DTS-HD High Resolution Audio [a]	7.1	×	○
DTS-HD Master Audio [a][b]	7.1	×	○
MPEG-2 AAC（LC）	5.1	○	○
マルチチャンネルリニアPCM[a]	7.1	×	○

a)再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。
b)サンプリング周波数が 96 kHz 以上の信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

小音量でサラウンド効果を楽しむ
（NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「AUDIO」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「NIGHT M.」を選び、⊕または → を押す。

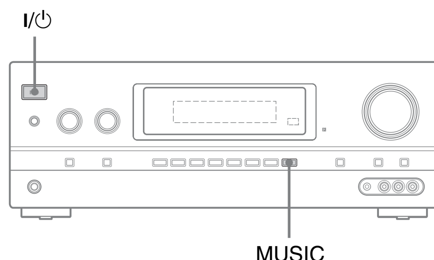
4 ↑/↓ をくり返し押して「NIGHT. ON」を選び、⊕を押す。

ご注意
NIGHT MODE は、以下の場合は機能しません。
– サンプリング周波数が 48 kHz 以上の信号を受信している。
– アナログダイレクト機能を使用している。

ちょっと一言
NIGHT MODE が機能していていると、「D. RANGE」が自動的に「COMP. MAX」に設定されます。

サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す

本体のボタンを使って操作してください。



1 I/⏻ を押して本機の電源を切る。

2 MUSIC を押しながら、I/⏻ を押す。

表示窓に「S.F. CLEAR」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能はHDMI機器制御機能を搭載したソニーのテレビやDVD／ブルーレイディスクプレーヤー、AVアンプなどが対応しています。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作ができます：
- ワンタッチプレイ（51ページ）
- システムオーディオコントロール（52ページ）
- オートジャンルセレクター（53ページ）
- 電源オフ連動（54ページ）
- シーンセレクト（55ページ）
- シアターモード（56ページ）
- オーディオリターンチャンネル（56ページ）

HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

ご注意
つないだ機器によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お持ちの機器の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”機能の準備をする

本機は「HDMI機器制御設定連動」に対応しています。
- 「HDMI機器制御設定連動」に対応しているテレビをお持ちの場合は、テレビのHDMI機器制御機能を設定すると、本機や再生機器の設定内容も連動して設定されます（50ページ）。
- 「HDMI機器制御設定連動」に対応していないテレビをお持ちの場合は、本機や再生機器、テレビのHDMI機器制御機能を別々に設定してください（51ページ）。

お持ちのテレビが「HDMI機器制御設定連動」に対応している場合は

テレビのHDMI機器制御機能が有効になると、本機のHDMI機器制御機能も連動して有効になります。

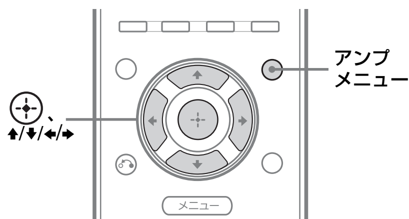
1 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（21ページ）
（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

3 テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。
本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能が連動して設定されます。設定が終わると「COMPLETE」と表示されます。

テレビの設定方法については、テレビの取扱説明書を参照してください。

お持ちのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」に対応していない場合は



1 「お持ちのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」に対応している場合は」（50 ページ）の手順を行う。

2 アンプメニューを押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕ または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「CTRL.HDMI」を選び、⊕ または → を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して「CTRL ON」を選び、⊕ を押す。
HDMI 機器制御機能が有効になります。

6 つないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にする。
すでに有効になっている場合は、設定を変更する必要はありません。

テレビやつないだ機器の設定方法については、お持ちの機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- テレビから「HDMI 機器制御設定連動」で設定する場合、事前にテレビと本機、再生機器の電源を入れてください。
- 「HDMI 機器制御設定連動」設定後に再生機器が動作しない場合は、テレビの HDMI 機器制御機能設定を確認してください。
- 「HDMI 機器制御設定連動」に対応していない再生機器は、テレビの HDMI 機器制御機能設定を有効にする前に HDMI 機器制御機能を有効にしてください。

ワンタッチで機器を再生する

（ワンタッチプレイ）

簡単な操作（ワンタッチ）で、本機に HDMI 接続された機器を自動的に起動して視聴できます。
「PASS.THRU」を「AUTO」または「ON」に設定したときは、本機はスタンバイ状態のままで、音声と映像がテレビから出力されます。

つないだ機器で再生を始めると、本機とテレビは下記のように動作します：

本機とテレビ

電源が入る（スタンバイ状態の場合）
↓
適切な HDMI 入力に切り換わる

ご注意

- テレビによっては、最初の部分が出力されないことがあります。
- 設定によっては、「PASS.THRU」を「AUTO」または「ON」に設定してあると、本機の電源が入らないことがあります。

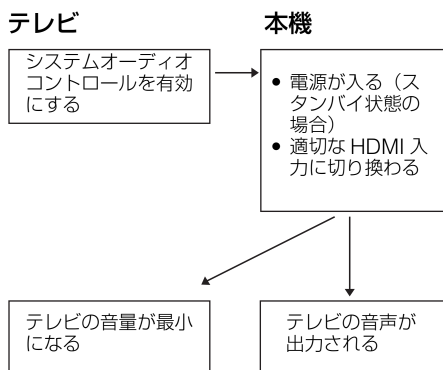
ちょっと一言

テレビのメニューを使って、DVD ／ブルーレイディスクプレイヤーなどの接続機器を選ぶことができます。この場合、本機とテレビは自動的に適切な HDMI 入力に切り換わります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。
システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくはお持ちのテレビの取扱説明書をご覧ください。



その他、システムオーディオコントロール機能は以下のように働きます。

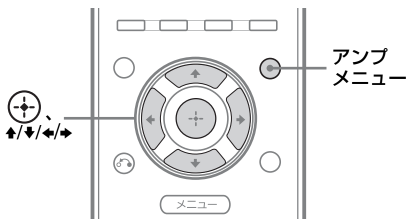
- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、テレビの音声が本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、本機につないだスピーカーの音量を調節できます。

ご注意

- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。お持ちのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 「CTRL.HDMI」が「CTRL ON」に設定されていると、システムオーディオコントロール機能によって、HDMIメニューの「AUDIO.OUT」は自動的に設定されます。
- システムオーディオコントロール機能のないテレビをつないだ場合は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- 本機の電源を入れてからテレビの音声が本機から出力されるまでには多少時間がかかることがあります。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える
（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお持ちの場合のみ）。
オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能が有効になっている場合のみ働きます。



1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕ または → を押す。**

3 **↑/↓ をくり返し押して「S. FIELD」を選び、⊕ または → を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して、設定を選ぶ。**

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

メニューから抜けるには

アンプメニューを押す。

番組情報対応表

番組情報（EPG 情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース / 報道	2CH ST.
スポーツ	SPORTS
情報 / ワイドショー	A.F.D. AUTO
ドラマ	A.F.D. AUTO
音楽	詳細ジャンルによって異なります。次ページの音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. AUTO
映画	C.ST.EX B
アニメ / 特撮	A.F.D. AUTO
ドキュメンタリー	A.F.D. AUTO
劇場 / 公演	CONCERT
趣味 / 教育	A.F.D. AUTO
福祉	A.F.D. AUTO
その他	A.F.D. AUTO
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	C.ST.EX B
邦画（CS）	C.ST.EX B
情報なし	A.F.D. AUTO

次のページへつづく

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック / ポップス	CONCERT
海外ロック / ポップス	CONCERT
クラシック / オペラ	HALL
ジャズ / フュージョン	JAZZ
歌謡曲 / 演歌	CONCERT
ライブ / コンサート	CONCERT
ランキング / リクエスト	CONCERT
カラオケ / のど自慢	CONCERT
民謡 / 邦楽	CONCERT
童謡 / キッズ	CONCERT
民族音楽 / ワールドミュージック	CONCERT
その他	CONCERT

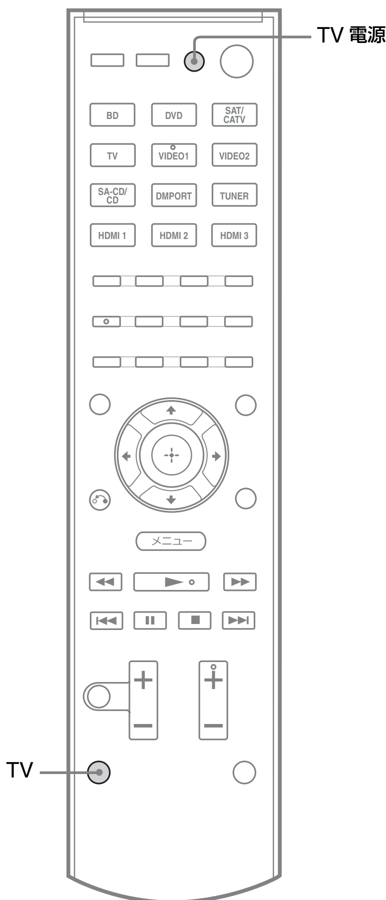
ご注意

番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

テレビと本機の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機のリモコンでも電源オフ連動の操作ができます。



TV を押しながら、TV 電源を押す。

HDMI でつないだすべての機器の電源が切れます。

ご注意

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 状態によっては、つないだ機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

番組に合わせて最適なサウンドフィールドで楽しむ

（シーンセレクト）

シーンセレクト機能を使って、テレビで設定した番組のジャンルに合った最適な画質、サウンドフィールドに切り換えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- HDMI メニューの「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているときは有効になりません。
- テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

映画を最適なサウンドフィールドで楽しむ

（シアターモード）

本機やテレビ、ブルーレイディスクプレイヤーのリモコンをテレビに向けて、シアターボタンを押す。

サウンドフィールドが「C.ST.EX B」に切り換わります。
もとのサウンドフィールドに切り換えるには、もう一度シアターボタンを押します。

ご注意

テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

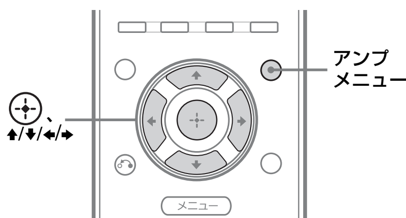
ちょっと一言

テレビの入力を切り換えたとき、もとのサウンドフィールドに切り換わることがあります。

HDMI ケーブルからテレビの音声を伝送する

（オーディオリターンチャンネル）

オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを、HDMI ケーブルで本機の HDMI TV OUT 端子につなぐと、テレビの音声信号が本機に伝送されます。
音声コードを、本機の TV OPTICAL IN 端子や TV AUDIO IN 端子につながなくても、テレビの音声を本機につないだスピーカーで楽しめます。



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕ または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「ARC」を選び、⊕ または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「ARC ON」を選び、⊕ を押す。

ご注意

- HDMI メニューの「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているときは使用できません。
- この機能が有効になるのは以下の場合のみです
  - お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応しているとき
  - INPUT MODE が「AUTO」に設定されているとき

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える
（INPUT MODE）

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。

1 本体のINPUT SELECTORつまみを回して入力を選ぶ。

リモコンの入力切り換えボタンを押して操作することもできます。

2 本体の INPUT MODE をくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。

本機の表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

音声入力モード

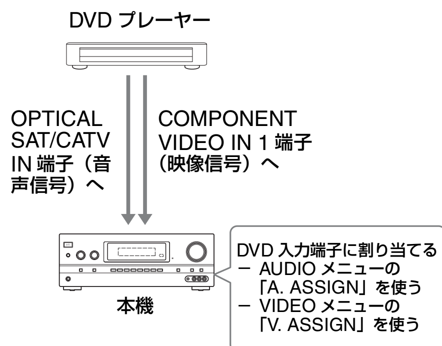
■ AUTO
デジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。

■ ANALOG
AUDIO IN L/R 端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- アナログダイレクト機能を使っているときは、音声入力モードは「ANALOG」に設定されます。他のモードは選べません。
- HDMI 1 ～ 3 または DMPORT 入力を選んでいるときは、「------」と表示され、他の項目は選べません。HDMI 1 ～ 3 または DMPORT 以外の入力以外を選び、音声入力モードを設定してください。

他の入力からの音声／映像を楽しむ

映像や音声信号を現在使っていない他の入力に割り当てることができます。
例：DVD プレーヤーから光デジタル音声信号と映像信号を入力したいときは



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「AUDIO」または「VIDEO」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「A. ASSIGN」または「V. ASSIGN」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、入力を割り当てたい入力名を選ぶ（例：「DVD」）。

5 ⊕または → を押して、選択を確定する。

6 ↑/↓ をくり返し押して、手順 4 で選んだ割り当てたい入力を選ぶ。

前の表示に戻るには

← を押します。

割り当てできる入力

割り当て可能な入力端子		入力名					
		VIDEO1	VIDEO2	BD	DVD	SAT	SA-CD
映像	CMPNT 1 (Component 1)	○	○	○*	○	○	○
	CMPNT 2 (Component 2)	○	○	○	○*	○	○
	CMPNT 3 (Component 3)	○	○	○	○	○*	○
	HDMI1	○	○	○	○	○	○
	HDMI2	○	○	○	○	○	○
	HDMI3	○	○	○	○	○	○
	COMP (Composite)	○*	○*	○	–	○	–
	NONE	–	–	–	○	–	○*
音声	DVD COAX	○	○	○	○*	○	○
	SAT OPT	○	○	○	○	○*	○
	ANALOG	○*	○*	○*	–	○	○*

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE の設定が必要になる場合があります（57 ページ）。
- 同じ入力に複数の HDMI 入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のデジタル音声入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のコンポーネント映像入力を同時に割り当てることはできません。

デジタルメディアポートにつないだ機器の音声／映像を楽しむ

デジタルメディアポート（DMPORT）端子にデジタルメディアポートアダプターをつないで、デジタルメディアポートアダプターにつないだポータブルオーディオプレーヤーやパソコンなどの映像や音声を楽しめます。
デジタルメディアポートアダプターは別売りです。
デジタルメディアポートアダプターの接続について詳しくは、「4a: オーディオ機器を接続する」（19 ページ）をご覧ください。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプターによっては、映像出力ができないものがあります。
- デジタルメディアポートアダプターの種類によっては、リモコンで本機につないだ機器を操作できます。リモコン操作について詳しくは、12 ページをご覧ください。

1 DMPORT を押す。

本体の INPUT SELECTOR つまみを使って、「DMPORT」を選ぶこともできます。

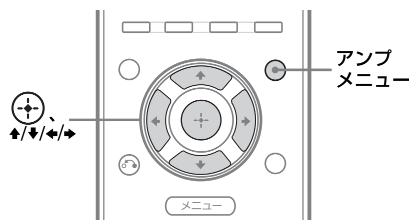
2 つないだ機器の再生を始める。

つないだ機器の音声が本機で再生され、テレビに映像が表示されます。操作について詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

本機につないだポータブルオーディオで、MP3 音声トラックや、その他の圧縮されたソースを聞くときに、音を増強することができます。サウンドフィールド＋ / －をくり返し押して、「PORTABLE」を選んでください（45 ページ）。

バイアンプ接続する



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「SPKR」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「PATTERN」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押してサラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンを選ぶ。

5 ⊕または ← を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して「SB ASGN」を選び、⊕または → を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押して「BI-AMP」を選ぶ。

SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B 端子から SPEAKERS FRONT A 端子と同じ信号が出力されます。

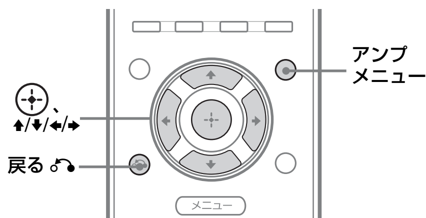
メニューから抜けるには

アンプメニューを押す。

ご注意
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前に「SB ASGN」を「BI-AMP」に設定してください。
- 「SB ASGN」を「BI-AMP」に設定すると、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーのレベル、距離などの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- 「PATTERN」でサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの設定にした場合、「SB ASGN」を「BI-AMP」に設定できません。

設定メニューの使いかた

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。



1 **アンプメニューを押す。**

2 **↑/↓ をくり返し押して設定したいメニューを選び、⊕または → を押す。**

3 **↑/↓ をくり返し押して設定したい項目を選び、⊕または → を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して、設定値を選ぶ。**
自動的に設定が確定されます。

前の表示に戻るには
← または戻る を押します。

メニューから抜けるには
アンプメニューを押す。

ご注意
表示窓のパラメーターや設定項目が暗く表示されているものは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

メニュー一覧

各メニューから以下の項目が設定できます。詳しくは、参照ページをご覧ください。

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
AUTO CAL [A. CAL] (34 ページ)	自動音場補正 [START]		
	補正のタイプ [CAL TYPE]	FULL.FLAT、ENGINEER FRONT.REF、OFF	FULL.FLAT
	リスニングポジション [POSITION]	POS 1、POS 2、POS 3	POS 1
	名前の入力 [NAME IN]	詳しくは、35 ページをご覧ください。	
LEVEL [LEVEL] (66 ページ)	テストトーン[a] [T. TONE]	OFF、AUTO ■■■[b]	OFF
	フロントスピーカー（左）レベル[a] [FL LVL]	FL –10.0 dB ～ FL +10.0 dB （0.5 dB 単位）	FL 0 dB
	フロントスピーカー（右）レベル[a] [FR LVL]	FR –10.0 dB ～ FR +10.0 dB （0.5 dB 単位）	FR 0 dB
	センタースピーカーレベル[a] [CNT LVL]	CNT –20.0 dB ～ CNT +10.0 dB （0.5 dB 単位）	CNT 0 dB
	サラウンドスピーカー（左）レベル[a] [SL LVL]	SL –20.0 dB ～ SL +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SL 0 dB
	サラウンドスピーカー（右）レベル[a] [SR LVL]	SR –20.0 dB ～ SR +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SR 0 dB
	サラウンドバックスピーカーレベル[a] [SB LVL]	SB –20.0 dB ～ SB +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SB 0 dB
	サラウンドバックスピーカー（左）レベル[a] [SBL LVL]	SBL –20.0 dB ～ SBL +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SBL 0 dB
	サラウンドバックスピーカー（右）レベル[a] [SBR LVL]	SBR –20.0 dB ～ SBR +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SBR 0 dB
	フロントハイスピーカー（左）レベル[a] [LH LVL]	LH –20.0 dB ～ LH +10.0 dB （0.5 dB 単位）	LH 0 dB
	フロントハイスピーカー（右）レベル[a] [RH LVL]	RH –20.0 dB ～ RH +10.0 dB （0.5 dB 単位）	RH 0 dB
	サブウーファーレベル[a] [SW LVL]	SW –20.0 dB ～ SW +10.0 dB （0.5 dB 単位）	SW 0 dB

メニュー［表示］	項目［表示］	設定値	初期値
	ダイナミックレンジの圧縮［D. RANGE］	COMP. MAX、COMP. STD、COMP.AUTO、COMP. OFF	COMP.AUTO
SPEAKER［SPKR］（67 ページ）	スピーカーパターン［PATTERN］	詳しくは、67 ページをご覧ください	3/4.1
	フロントスピーカーサイズ a)［FRT SIZE］	LARGE、SMALL	LARGE
	センタースピーカーサイズ a)［CNT SIZE］	LARGE、SMALL	LARGE
	サラウンドスピーカーサイズ a)［SUR SIZE］	LARGE、SMALL	LARGE
	フロントハイスピーカーサイズ a)［FH SIZE］	LARGE、SMALL	LARGE
	サラウンドバックスピーカーの割り当て c)［SB ASGN］	SPK B、BI-AMP、OFF	OFF
	フロントスピーカー（左）までの距離 a)［FL DIST.］		
	フロントスピーカー（右）までの距離 a)［FR DIST.］		
	センタースピーカーまでの距離 a)［CNT DIST.］		
	サラウンドスピーカー（左）までの距離 a)［SL DIST.］		
	サラウンドスピーカー（右）までの距離 a)［SR DIST.］	3'3'' ～ 32'9''（1 inch 単位）1.00 m ～ 10.00 m（0.01 m 単位）	9'10'' 3.00 m
	サラウンドバックスピーカーまでの距離 a)［SB DIST.］		
	サラウンドバックスピーカー（左）までの距離 a)［SBL DIST.］		
	サラウンドバックスピーカー（右）までの距離 a)［SBR DIST.］		
	フロントハイスピーカー（左）までの距離 a)［LH DIST.］		

次のページへつづく

メニュー［表示］	項目［表示］	設定値	初期値
	フロントハイスピーカー（右）までの距離[a] ［RH DIST.］	3’3’’ ～ 32’9’’（1 inch 単位） 1.00 m ～ 10.00 m（0.01 m 単位）	9’10’’ 3.00 m
	サブウーファーまでの距離[a] ［SW DIST.］		
	距離の単位 ［DIST.UNIT］	METER、FEET	METER
	フロントスピーカーのクロスオーバー周波数[d] ［FRT CRS.］	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	センタースピーカーのクロスオーバー周波数[d] ［CNT CRS.］	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数[d] ［SUR CRS.］	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数[d] ［FH CRS.］	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
SURROUND ［SURR］ （70 ページ）	サウンドフィールドの種類の選択 ［S.F. SELCT］	詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」をご覧ください（44 ページ）。	A.F.D. AUTO
	エフェクトレベル ［EFFECT］	EFCT. MIN、EFCT. STD、EFCT. MAX	EFCT. STD
EQ ［EQ］ （70 ページ）	フロントスピーカーの低域レベル ［BASS］	BASS –10 dB ～ BASS +10 dB（1 dB 単位）	BASS 0 dB
	フロントスピーカーの高域レベル ［TREBLE］	TRE –10 dB ～ TRE +10 dB（1 dB 単位）	TRE 0 dB
TUNER ［TUNER］ （70 ページ）	FM 放送局の受信モード ［FM MODE］	STEREO、MONO	STEREO
	登録した放送局に名前を付ける ［NAME IN］	詳しくは、「登録した放送局に名前を付ける」をご覧ください（43 ページ）。	
AUDIO ［AUDIO］ （71 ページ）	音声と映像出力の同期 ［A/V SYNC］	SYNC 0 ～ SYNC 30	SYNC 0
	二重音声モード ［DUAL］	MAIN/SUB、MAIN、SUB	MAIN
	デジタル音声入力デコードプライオリティ ［DEC. PRIO］	DEC. AUTO, DEC. PCM	DEC. AUTO

メニュー [表示]	項目 [表示]	設定値	初期値
	デジタル音声入力の割り当て [A. ASSIGN]	詳しくは、「他の入力からの音声／映像を楽しむ」(58 ページ)をご覧ください。	
	ナイトモード [NIGHT M.]	NIGHT.OFF、NIGHT. ON	NIGHT.OFF
VIDEO [VIDEO] (71 ページ)	映像入力の割り当て [V. ASSIGN]	詳しくは、「他の入力からの音声／映像を楽しむ」(58 ページ)をご覧ください。	
HDMI [HDMI] (72 ページ)	HDMI 機器制御機能の設定 [CTRL.HDMI]	CTRL ON、CTRL OFF	CTRL ON
	HDMI シグナルパススルー [PASS.THRU]	ON、AUTO、OFF	OFF
	HDMI 音声出力の設定 [AUDIO.OUT]	TV+AMP、AMP	AMP
	HDMI のサブウーファーレベル[e] [SW LEVEL]	SW AUTO、SW +10 dB、SW 0 dB	SW AUTO
	HDMI のサブウーファーローパスフィルタ[e] [SW L.P.F.]	L.P.F. ON、L.P.F. OFF	L.P.F. ON
	サウンドフィールド設定 [S. FIELD]	AUTO、MANUAL	MANUAL
	オーディオリターンチャンネル [ARC]	ARC ON、ARC OFF	ARC ON
SYSTEM [SYSTEM] (73 ページ)	表示窓の明るさ [DIMMER]	DIM MAX、DIM MID、DIM OFF	DIM OFF
	スリープタイマー [SLEEP]	OFF、0-30-00、1-00-00、1-30-00、2-00-00	OFF
	自動スタンバイ [AUTO.STBY]	STBY ON、STBY OFF	STBY ON
	名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「入力に名前をつける」(38 ページ)をご覧ください。	

a) スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。
b) ■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます(FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、LH、RH、SW)。
c) この項目はサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーがない「PATTERN」に設定されているときのみ、選べます(67 ページ)。
d) この項目はスピーカーが「LARGE」に設定されていると選べません。
e) この項目は HDMI 入力信号を検出したときのみ、表示されます。

LEVEL メニュー

各スピーカーのレベルやバランスを調整できます。これらの設定はすべてのサウンドフィールドについて有効です。

■ T. TONE

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。
- OFF
  テストトーンが止まります。
- AUTO ■■■*
  各スピーカーからテストトーンが順番に出力されます。

* ■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

スピーカーのレベルを調節するには

以下の項目を使って、各スピーカーのレベルを調節できます。
フロントスピーカー左／右の場合、－ 10 dB から＋ 10 dB の範囲で 0.5 dB 単位で設定できます。他のスピーカーの場合、－ 20 dB から＋ 10 dB の範囲で 0.5 dB 単位で設定できます。

■ FL LVL

■ FR LVL

■ CNT LVL

■ SL LVL

■ SR LVL

■ SB LVL

■ SBL LVL

■ SBR LVL

■ LH LVL

■ RH LVL

■ SW LVL

ご注意

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

■ D. RANGE

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。
- COMP. MAX
  ダイナミックレンジを極端に狭くします。
- COMP. STD
  レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- COMP.AUTO
  ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- COMP. OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

ちょっと一言

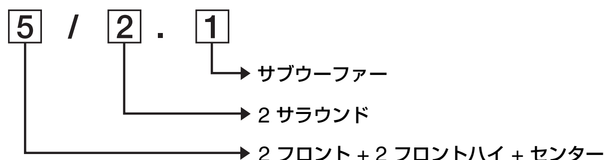
ダイナミックレンジの圧縮は、サウンドトラックのダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
「COMP. STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「COMP. MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

SPEAKER メニュー

SPEAKER メニューを使って、本機に接続している各スピーカーのサイズと距離を設定できます。

■ PATTERN

接続しているスピーカーの数を設定します。スピーカーの設定に合わせます。
例：



スピーカーパターン	フロント左 / 右	フロントハイ左 / 右	センター	サラウンド左 / 右	サラウンドバック左	サラウンドバック右	サブウーファー
5/2.1	○	○	○	○	–	–	○
5/2	○	○	○	○	–	–	–
4/2.1	○	○	–	○	–	–	○
4/2	○	○	–	○	–	–	–
3/4.1	○	–	○	○	○	○	○
3/4	○	–	○	○	○	○	–
2/4.1	○	–	–	○	○	○	○
2/4	○	–	–	○	○	○	–
3/3.1	○	–	○	○	○	–	○
3/3	○	–	○	○	○	–	–
2/3.1	○	–	–	○	○	–	○
2/3	○	–	–	○	○	–	–
3/2.1	○	–	○	○	–	–	○
3/2	○	–	○	○	–	–	–
2/2.1	○	–	–	○	–	–	○
2/2	○	–	–	○	–	–	–
3/0.1	○	–	○	–	–	–	○
3/0	○	–	○	–	–	–	–
2/0.1	○	–	–	–	–	–	○
2/0	○	–	–	–	–	–	–

次のページへつづく

■ FRT SIZE

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。サブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたフロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーに回されて再生されます。ただし、フロントスピーカーの設定を「SMALL」にすると、センター、サラウンド、フロントハイスピーカーも自動的に「SMALL」に設定されます。

■ CNT SIZE

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。ただし、フロントスピーカーが「SMALL」になっていると、センタースピーカーを「LARGE」に設定できません。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたセンタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーに回されて再生されます。

■ SUR SIZE

サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。ただし、フロントスピーカーが「SMALL」になっていると、サラウンドスピーカーを「LARGE」に設定できません。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたサラウンドスピーカーの低域成分は、「LARGE」に設定した他のスピーカーまたはサブウーファーに回されて再生されます。

■ FH SIZE

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。ただし、フロントスピーカーが「SMALL」になっていると、フロントハイスピーカーを「LARGE」に設定できません。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたフロントハイスピーカーの低域成分は、「LARGE」に設定した他のスピーカーまたはサブウーファーに回されて再生されます。

ちょっと一言
各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については 70 ページをご覧ください。

■ SB ASGN

- SPK B
  追加のフロントスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B 端子につなぐ場合は、「SPK B」を選びます。
- BI-AMP
  バイアンプ接続でフロントスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH/BI-AMP/FRONT B につなぐ場合は、「BI-AMP」を選びます。
- OFF
  サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーを SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH/ BI-AMP/FRONT B 端子につなぐ場合は、「OFF」を選びます。

ご注意
バイアンプ（BI-AMP）や、フロントスピーカー（SPK B）接続から、サラウンドバックやフロントハイ接続に変更する場合、「SB ASGN」を「OFF」にし、自動音場補正を行ってください（31 ページ）。

■ FL DIST.

■ FR DIST.
リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離を設定します。左右のフロントスピーカーまでの距離が同じでない場合は、近いほうのスピーカーまでの距離を設定します。

■ CNT DIST.
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

■ SL DIST.

■ SR DIST.
リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

■ SB DIST.

■ SBL DIST.

■ SBR DIST.
リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。

■ LH DIST.

■ RH DIST.
リスニングポジションからフロントハイスピーカーまでの距離を設定します。

■ SW DIST.
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。

ご注意
- スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。
- 以下の場合は機能しません。
  – サンプリング周波数が 96 kHz 以上の信号を受信している。
  – アナログダイレクト機能を使っている。

次のページへつづく

■ DIST.UNIT
スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。
- METER
  メートル表示に切り換えます。
- FEET
  フィート表示に切り換えます。

■ FRT CRS.
SPEAKER メニューで「SMALL」に設定されているフロントスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

■ CNT CRS.
SPEAKER メニューで「SMALL」に設定されているセンタースピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

■ SUR CRS.
SPEAKER メニューで「SMALL」に設定されているサラウンドスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

■ FH CRS.
SPEAKER メニューで「SMALL」に設定されているフロントハイスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

SURROUND メニュー

お好みのサウンドフィールドを選べます。

■ S.F. SELCT
お好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」（44 ページ）をご覧ください。

ご注意
本機では、各入力で最後に選んだサウンドフィールドが次回も適用されます（サウンドフィールドリンク）。例えば、DVD 入力に対して「HALL」を選び、その後、入力を切り換えて、もう一度 DVD 入力に戻っても、「HALL」が適用されます。

■ EFFECT
サウンドフィールドのシネマスタジオ EX A/B/C を選んだときの、サラウンド効果のレベルを選ぶことができます。

EQ メニュー

フロントスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。

■ BASS

■ TREBLE

ご注意
以下の場合は機能しません。
– サンプリング周波数が 48 kHz 以上の信号を受信している。
– アナログダイレクト機能を使っている。

ちょっと一言
フロントスピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体の TONE MODE、TONE +/– つまみでも調節できます（5 ページ）。

TUNER メニュー

FM 放送局の受信モードを設定できます。また、登録した放送局に名前を付けることもできます。

■ FM MODE
- STEREO
  ステレオで放送されたラジオ放送をステレオとして受信します。
- MONO
  放送信号に関わらず、モノラルとして受信します。

■ NAME IN
登録した放送局に名前を付けます。詳しくは、「登録した放送局に名前を付ける」（43 ページ）をご覧ください。

AUDIO メニュー

お好みに合わせて音声を設定できます。

■ A/V SYNC
入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。0（0 ms）～ 30（300 ms）の範囲で 10 ms ごとに調節できます。

ご注意
- 大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- 以下の場合は機能しません。
  – 受信しているマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD 信号のサンプリング周波数が 96 kHz 以上のとき。
  – アナログダイレクト機能を使用している。

■ DUAL
デジタル放送を聞くときの音声を選びます。この機能は、ソースが MPEG-2 AAC やドルビーデジタルフォーマットのときのみ有効です。
- MAIN/SUB
  フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。
- MAIN
  主音声のみを出力します。
- SUB
  副音声のみを出力します。

■ DEC. PRIO
HDMI IN 端子または DIGITAL IN 端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。
- DEC. AUTO
  DTS、ドルビーデジタル、MPEG-2 AAC、PCM の音声入力を自動的に判別し、再生します。
- DEC. PCM
  DIGITAL IN 端子からの信号を選んでいるときに、PCM 信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、PCM 以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「DEC. AUTO」に設定してください。
  HDMI IN 端子からの信号を選んでいるときは、つないだ機器からは PCM 信号のみ出力されるようになります。その他のフォーマットを受信する場合は「DEC. AUTO」に設定してください。

ご注意
- 「DEC. PRIO」を「DEC. PCM」に設定した場合でも、再生する CD の信号によっては頭切れすることがあります。
- DTS CD を再生するには、「DEC. PRIO」を「DEC. AUTO」に設定します。

■ A. ASSIGN
特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「他の入力からの音声／映像を楽しむ」（58 ページ）をご覧ください。

■ NIGHT M.
音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。詳しくは、「小音量でサラウンド効果を楽しむ （NIGHT MODE)」（49 ページ）をご覧ください。
- NIGHT.OFF
- NIGHT. ON

VIDEO メニュー

映像入力の割り当てができます。

■ V. ASSIGN
特定の映像入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「他の入力からの音声／映像を楽しむ」（58 ページ）をご覧ください。

HDMI メニュー

HDMI 端子につないだ機器の設定ができます。

■ CTRL.HDMI

HDMI 機器制御機能を有効にします。詳しくは、「"ブラビアリンク"機能を使う」（50 ページ）をご覧ください。

■ PASS.THRU

本機がスタンバイ状態でも HDMI 信号をテレビに出力できるようにします。

- ON
  本機がスタンバイ状態時になっても、HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号を出力し続けます。
- AUTO
  本機のスタンバイ状態時に、テレビの電源を入れると本機の HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号を出力します。"ブラビアリンク"対応のテレビをお持ちの場合、この設定をおすすめします。「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を削減できます。
- OFF
  本機のスタンバイ状態時に、HDMI 信号を出力しません。つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を削減できます。

ご注意

- この項目は「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」のとき表示されません。
- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。
- 「PASS.THRU」が「AUTO」または「ON」に設定されている場合は、本機のスタンバイ状態時に「HDMI」表示が点灯します。ただし、「PASS.THRU」が「AUTO」に設定されている場合は、信号を受信していないと表示は消えます。

■ AUDIO.OUT

本機と HDMI 接続した再生機から出力される HDMI 音声の出力先設定をします。

- TV+AMP
  テレビのスピーカーと、本機につないだスピーカーから音声が出力されます。

  ご注意
  - 本機で再生する音声は、チャンネル数やサンプリング周波数など、テレビの性能に依存します。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
  - 本機に映像機器（プロジェクターなど）をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ないことがあります。その場合は、「AMP」に設定してください。

- AMP
  再生機の HDMI 音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。

  ご注意
  「AUDIO.OUT」が「AMP」に設定されていると、テレビのスピーカーから音は出ません。

■ SW LEVEL

HDMI 接続を通してマルチチャンネルリニア PCM 信号が入力されているときにサブウーファーのレベルを 0 dB または +10 dB に調節できます。HDMI 入力ごとにレベルの設定ができます。

- SW AUTO
  入力ソースのサンプリング周波数によって自動的に +10 dB か 0 dB に設定します。
- SW +10 dB
- SW 0 dB

ご注意

この項目は、HDMI 入力信号が検出されているときにのみ表示されます。

■ SW L.P.F.
HDMI 接続でマルチチャンネルリニアPCM 信号が入力されているときに、サブウーファー出力のローパスフィルタを設定します。お持ちのサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルタがない場合は、「SW L.P.F.」に設定してください。
- L.P.F. ON
  常にカットオフ周波数 120 Hz のローパスフィルタが働きます。
- L.P.F. OFF
  ローパスフィルターは機能しません。

ご注意
この項目は、HDMI 入力信号が検出されているときにのみ表示されます。

■ S. FIELD
デジタルテレビ放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかを設定します。詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える （オートジャンルセレクター）」（53 ページ）をご覧ください。

■ ARC
HDMI ケーブルで本機につないだスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。詳しくは、「HDMI ケーブルからテレビの音声を伝送する （オーディオリターンチャンネル）」（56 ページ）をご覧ください。
- ARC ON
  音声信号が HDMI TV OUT 端子に入力されます。
- ARC OFF
  音声信号が TV OPTICAL IN 端子または TV AUDIO IN 端子に入力されます。

ご注意
この項目は「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」のとき表示されません。

SYSTEM メニュー
本機の各種設定を変えることができます。

■ DIMMER
表示窓の明るさを 3 段階で調節できます。

■ SLEEP
設定した時間がたつと、本機の電源が自動的に切れるようにスリープタイマーを設定できます。詳しくは、「スリープタイマーを使う」（39 ページ）をご覧ください。

■ AUTO.STBY
30 分以上操作がされないとき、または30 分以上本機に信号が入力されないとき、自動的にスタンバイ状態になるよう設定できます。
- STBY ON
  約 30 分後にスタンバイ状態になります。
- STBY OFF
  スタンバイ状態になりません。

ご注意
- この項目は、TUNER 入力が選ばれているときは機能しません。
- スリープタイマーとオートスタンバイ機能を両方有効にしている場合は、スリープタイマーの設定が優先されます。

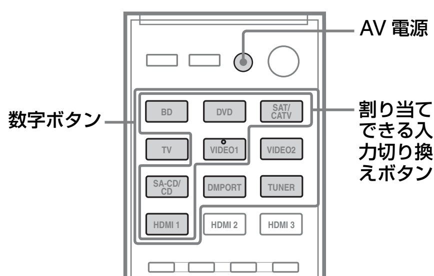
■ NAME IN
入力に名前を付けて、表示できます。詳しくは、「入力に名前をつける」（38 ページ）をご覧ください。

入力切り換えボタンの割り当てを変更する

お持ちの機器に合わせて入力切り換えボタンの設定を変更できます。例えば、ブルーレイディスクプレーヤーを本機のDVD 端子につないだ場合、リモコンのDVD ボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定できます。

ご注意

TV または VIDEO 2、DMPORT、TUNER、HDMI 2、HDMI 3 入力ボタンの割り当ては変更できません。



1 **割り当てを変更したい入力切り換えボタンを押しながら、AV 電源を押す。**

例 : DVD を押しながら、AV 電源を押す。

2 **AV 電源を押したまま、手順 1 で選んだ入力切り換えボタンをはなす。**

例 : AV 電源を押したまま、DVD をはなす。

3 **下記の表を参照し、使いたい機器の種類に対応するボタンを押し、AV 電源をはなす。**

例 : 1 を押し、AV 電源をはなす。DVD ボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

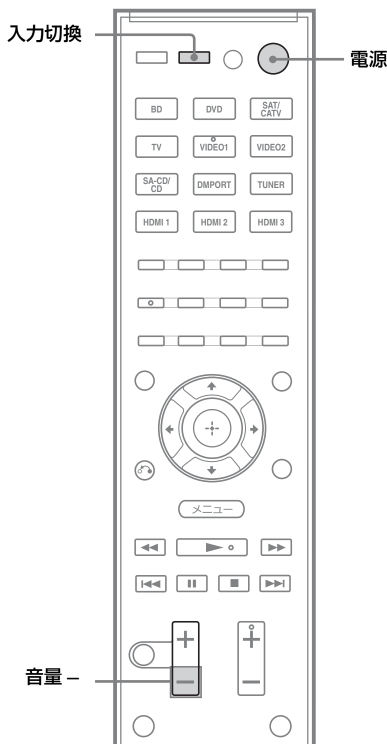
機器の種類と BD または DVD、SAT/CATV、VIDEO 1、SA-CD/CD、HDMI 1 に対応するボタン

機器の種類	ボタン
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンコード : BD1）[a]	1
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンコード : BD3）[a]	2
DVD プレーヤー（リモコンコード : DVD1）	3
DVD レコーダー（リモコンコード : DVD3）[b]	4
ビデオデッキ（リモコンコード : VTR3）	5
CD プレーヤー	6
デジタル CS チューナー	7

[a] BD1 または BD3 の設定について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

[b] ソニー製の DVD レコーダーは DVD1 または DVD3 の設定で操作できます。詳しくは、DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



音量 – を押したまま、電源と入力切換を押す。

リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

その他

用語集

■ AAC（MPEG-2 AAC）

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽 CD 並みの音質を実現できます。

■ Cinema Studio EX

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の 3 つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が 7.1ch までの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類により A/B/C の 3 つのモードを選べます。

■ Component video（コンポーネント）映像

映像信号を輝度 Y と色差 Pb、Pr の 3 系統に分けて伝送する映像端子です。DVD ビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3 つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

次のページへつづく

■ Composite video（コンポジット）映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度 Y と色 C を 1 つにまとめて伝送します。

■ Deep Color

HDMI 端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号です。
従来の HDMI 端子では、1 ピクセル（画素）で表現可能な色数は 24 ビット（16,777,216 色）でしたが、Deep Color に対応した場合、より高い 36 ビットなどに対応することが可能になります。
多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができます。

■ Digital Cinema Sound（DCS）

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■ Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。フロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーの 5.1ch で構成され、DVD ビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■ Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は従来のドルビーデジタルをさらに高音質・高機能に進化させた音声フォーマットで、HD クオリティの映像にリッチなサラウンドサウンドを提供する柔軟性と効率性を備えています。Dolby Digital Plus の優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大 7.1ch の高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

■ Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。Dolby Digital の 5.1ch 信号のサラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に 6.1ch で出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■ Dolby Pro Logic II

2ch ステレオで記録された音声を 5.1ch に変換して再生します。映画用の MOVIE モードと、音楽などのステレオソース用の MUSIC モードがあります。
従来のステレオで録音された古い映画も、5.1ch の迫力で再現します。

■ Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または 6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンド EX 作品に加え、通常の 5.1ch ドルビーデジタル作品を 7.1ch（または 6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも 7.1ch（または 6.1ch）で再生できます。

■ Dolby Pro Logic IIz

Dolby Pro Logic IIz は左右のフロントハイスピーカーを通じて垂直方向の表現をサウンドフィールドに加えます。オーディオミックスで安定感のない音をデコードし、ハイスピーカーより再生することで、一層の奥行きと臨場感を与えます。

■ Dolby Surround（Dolby Pro Logic）

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ 2ch の中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに 4ch サラウンドで出力します。DVD ビデオに使用される、最も一般的な音声処理技術です。

■ Dolby TrueHD

Dolby TrueHD はドルビーラボラトリーズによって開発された次世代光ディスク向けのロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。Dolby TrueHD はスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現し、96 kHz/24 ビットでは最大 8ch、192 kHz/24 ビットでは最大 6ch のサラウンド音声をサポートしています。HD 映像との組み合わせにより、Dolby TrueHD はこれまで想像できなかったほどのハイクオリティなホームシアター体験を提供します。

■ DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVD ビデオでは最高の、サンプリング周波数 96 kHz ／量子化ビット数 24 ビットで音を記録します。再生時のチャンネル数は、ソフトウェアにより変動します。

■ DTS Digital Surround

DTS 社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。約 4 分の 1 の比較的低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■ DTS-ES

サラウンドバックを加えた 6.1ch 方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート 6.1」と、ドルビーサラウンド EX と同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス 6.1」の 2 種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■ DTS-HD

従来の DTS デジタルサラウンドを拡張したオーディオフォーマットです。
コアとエクステンションで構成され、コア部は DTS デジタルサラウンドと互換性を持っています。
DTS-HD には、DTS-HD High Resolution Audio と DTS-HD Master Audio の 2 種類があります。
DTS-HD High Resolution Audio は、最大転送レートが 6 Mbps の非可逆圧縮（Lossy）で、最大 96 kHz のサンプリング周波数と最大 7.1ch に対応します。
DTS-HD Master Audio は、最大転送レートが 24.5 Mbps の可逆圧縮（Lossless）で、48 kHz または 96 kHz のサンプリング周波数で最大 7.1ch、192 kHz のサンプリング周波数で最大 5.1ch に対応します。

■ DTS Neo:6

2ch ステレオで記録された音声を 7ch に変換して再生します。映画用の CINEMA モードと、音楽などのステレオソース用の MUSIC モードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビにつないだ機器のデジタル映像／音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI 端子とテレビを 1 本のケーブルでつなぐことで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術である HDCP にも対応しています。

■ PCM（Pulse Code Modulation）

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。
Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

次のページへつづく

■ サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1 秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽 CD の場合、1 秒間に 44,100 回記録しており、サンプリング周波数を 44.1 kHz と表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

■ x.v.Color

x.v.Color とは、xvYCC 規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。xvYCC 規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

音声

どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
- 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
- MASTER VOLUME が「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- 本機前面の SPEAKERS が「SPK OFF」になっていないか確認する（29 ページ）。
- ヘッドホンがつながれていないか確認する。
- リモコンの消音を押して、消音機能を解除する。
- 入力切り換えボタン（または本体の INPUT SELECTOR つまみ）で正しい入力が選ばれているか確認する（37 ページ）。
- 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。

選んだ機器から音が出ない

- 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

その他

次のページへつづく

片方のフロントスピーカーから音が出ない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。
- アナログ機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。音声コード（別売）を使ってL/R両方の端子に接続してください。

アナログ2チャンネル入力の音が出ない

- 選んだ入力のINPUT MODEが「AUTO」に設定されていないか（57ページ）、また選んだ入力がデジタル接続されていないか確認する。
- 選んだ入力のINPUT MODEが「AUTO」に設定されていないか（57ページ）、また「A. ASSIGN」機能を使って他のソースの音声入力に割り当てていないか確認する（58ページ）。

デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない

- INPUT MODE機能を使って「ANALOG」を選んでいないか確認する（57ページ）。
- アナログダイレクト機能を使っていないか確認する。
- 「A. ASSIGN」機能を使って他のソースの音声入力に割り当てていないか確認する（58ページ）。
- テレビから信号を入力しているときにTV OPTICAL IN端子から音が出力されない場合は、「ARC」を「ARC OFF」に設定する（73ページ）。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- LEVELメニューにあるレベルパラメーターを調節する。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。
- テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

センター／サラウンド／サラウンドバック／フロントハイスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- シネマスタジオEXモードを選ぶ（44ページ）。
- AUTO CALメニュー、またはSPEAKERメニューの「PATTERN」を調べて適切なスピーカー設定になっているかを確認する。そして、LEVELメニューの「T. TONE」を使って、各スピーカーから音が出るか確認する。
- スピーカーの音量を調節する（36ページ）。

サブウーファーの音が出ない

- サブウーファーが正しく接続されているか確認する。
- サブウーファーの電源が入っているか確認する。
- 選んでいるサウンドフィールドによっては、サブウーファーからは音が出ません。
- すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「NEO6 CIN」または「NEO6 MUS」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
- 「PATTERN」設定を確認する（67 ページ）。

サラウンド効果が得られない

- 映画モードや音楽モードにサウンドフィールドを設定したか確認する（44、45 ページ）。
- サンプリング周波数が 48 kHz 以上の信号を受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。

ドルビーデジタルや DTS のマルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中の DVD などが、ドルビーデジタルや DTS で録音されているか確認する。
- DVD プレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。たとえば、“プレイステーション 3”を接続しているときは、BD/DVD の音声出力フォーマットを“プレイステーション 3”の「Bitstream」に設定する。
- HDMI メニューの「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定する。

録音ができない

- 各機器が正しく接続されているか確認する。
- 入力切り換えボタンで録音したい機器を選ぶ（37 ページ）。

デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器から音がでない

- 本機の音量を確認してください。
- デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーが正しく接続されていません。本機の電源を切り、デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーをつなぎなおしてください。
- 本機がデジタルメディアポートアダプターとプレーヤーのデバイスに対応しているか確認してください。

映像

テレビ画面やモニターに映像が出ない、または明瞭でない

- 適切な入力を選ぶ。
- テレビの入力モードを確認する。
- テレビをオーディオ機器から離す。
- デジタルメディアポートアダプターによっては、映像を入力できません。

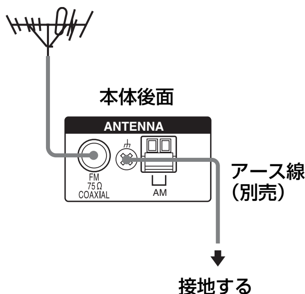
録画ができない

- 各機器が正しく接続されているか確認する。
- 入力切り換えボタンで録画したい機器を選ぶ（37 ページ）。

ラジオ

FM 放送の受信状態が悪い

- 75Ω 同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外アンテナをつなぐ。本機と屋外アンテナをつなぐ場合は、避雷のため、アース線を使って接地してください。ガス爆発を防ぐため、アース線をガス管に接続しないでください。



放送局が受信できない

- アンテナが正しくつながれているか確認する。アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。
- 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。
- AM 局をダイレクト受信しているときは、受信範囲が正しいか確認する。
- プリセットしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（42 ページ）。
- DISPLAY をくり返し押して、表示窓で周波数を確認する。

HDMI

HDMI に入力しているソースの音が本機または本機に接続したテレビからでない

- HDMI 接続を確認する（21 ページ）。
- HDMI 接続でスーパーオーディオ CD は聞けません。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。つないだ機器の取扱説明書もご覧ください。
- Deep Color や 3D 伝送の映像や音声を視聴するときは、ハイスピード HDMI ケーブルでつないでいるか確認する。

HDMI に入力しているソースの映像が本機に接続したテレビからでない

- HDMI 接続を確認する（21 ページ）。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。つないだ機器の取扱説明書もご覧ください。
- Deep Color や 3D 伝送の映像や音声を視聴するときは、ハイスピード HDMI ケーブルでつないでいるか確認する。

HDMI 機器制御機能が働かない

- HDMI 接続を確認する（21 ページ）
- HDMI メニューで「CTRL.HDMI」が「CTRL ON」に設定されていることを確認する。
- つないだ機器が HDMI 機器制御機能に対応していることを確認する。
- つないだ機器の HDMI 機器制御機能設定を確認する。お持ちの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI 接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「“ブラビアリンク”機能の準備をする」（50 ページ）の手順をくり返す。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出ない

- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI メニューの「AUDIO.OUT」を下記のように設定する。
  – テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くときは、「TV+AMP」に設定する。
  – 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くときは、「AMP」に設定する。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ない場合があります。この場合は、「AMP」に設定してください。
- 本機に接続した機器の音声が聞こえない
  – 本機に HDMI 接続した機器を視聴するときは、本機の入力を HDMI に切り換える。
  – テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。
  – テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

- 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていた HDMI 入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていた HDMI 入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れて HDMI 入力を選び直してください。
- "ブラビアリンク" に対応していない機器をつないでいる場合は、HDMI メニューの「PASS.THRU」が「ON」に設定されているか確認する（72 ページ）。

リモコン

リモコンで操作できない

- 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
- リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池を新しいものに交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

その他

本機の電源が自動的に切れる

- 「AUTO.STBY」機能が働いています（73 ページ）。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にエラーメッセージが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。自動音場補正の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーコードが表示されたときは」（33ページ）をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。

PROTECTOR
- スピーカー出力に異常な電流が流れている、または本機の上面が覆われています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、再度電源を入れてください。

その他の症状が出たときは

本機を初期設定状態にしてください（29ページ）。すべての設定がお買い上げ時の状態に戻りますので、再設定が必要になります。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	29ページ
調節したサウンドフィールド	49ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DH710
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード（8 Ω、JEITA）：
140 W（1 kHz, THD 10%）

サラウンドモード（8 Ω、JEITA）：
フロント部：140 W（1 チャンネルあたり）
センター部：140 W（1 チャンネルあたり）
サラウンド部：140 W（1 チャンネルあたり）
サラウンドバック / フロントハイ部：140 W（1 チャンネルあたり）

スピーカー適合インピーダンス
フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック / フロントハイ部：
8 Ω またはそれ以上

高調波ひずみ率　0.09% 以下
20 Hz – 20 kHz
（8 Ω 負荷）
85 W + 85 W

周波数特性　10 Hz – 70 kHz ±3 dB（8 Ω 時）（サウンドフィールド、イコライザー無効時）

入力

アナログ　入力感度：500 mV/50 kΩ
S/N 比[1)]：96 dB（A、500 mV[2)]）

デジタル（Coaxial）
入力インピーダンス：75 Ω
S/N 比：100 dB（A、20 kHz LPF）

デジタル（Optical）
S/N 比：100 dB（A、20 kHz LPF）

出力（アナログ）

AUDIO OUT　出力電圧：500 mV/10 kΩ

SUBWOOFER　出力電圧：2 V/1 kΩ

次のページへつづく

イコライザー
ゲインレベル　±10 dB、1 dB 単位

[1]INPUT SHORT（サウンドフィールド、イコライザー無効時）
[2]重み付きネットワーク 入力レベル。

FM チューナー部

受信周波数	76.0 MHz – 90.0 MHz
アンテナ	FM ワイヤーアンテナ
アンテナ端子	75 Ω、不平衡型
中間周波数	10.7 MHz

AM チューナー部

受信周波数	531 kHz – 1,602 kHz（9 kHz 間隔）
アンテナ	AM ループアンテナ
中間周波数	450 kHz

ビデオ部

入力／出力
Video：　1 Vp-p、75 Ω
COMPONENT VIDEO：
Y：1 Vp-p、75 Ω
P_B/C_B：0.7 Vp-p、75 Ω
P_R/C_R：0.7 Vp-p、75 Ω

HDMI Video

入力／出力（HDMI Repeater block）
640 × 480p@60 Hz
720 × 480p@59.94/60 Hz
1280 × 720p@59.94/60 Hz
1920 × 1080i@59.94/60 Hz
1920 × 1080p@59.94/60 Hz
720 × 576p@50 Hz
1280 × 720p@50 Hz
1920 × 1080i@50 Hz
1920 × 1080p@50 Hz
1920 × 1080p@24 Hz

HDMI Video（3D）

入力／出力（HDMI Repeater block）
1280 × 720p@59.94/60 Hz Frame packing
1920 × 1080i@59.94/60 Hz Frame packing
1920 × 1080i@59.94/60 Hz Side-by-Side（Half）
1920 × 1080p@59.94/60 Hz Side-by-Side（Half）
1280 × 720p@50 Hz Frame packing
1920 × 1080i@50 Hz Frame packing
1920 × 1080i@50 Hz Side-by-Side（Half）
1920 × 1080p@50 Hz Side-by-Side（Half）
1920 × 1080p@24 Hz Frame packing

電源、その他

電源　AC 100 V、50/60 Hz
電源出力（DIGITAL MEDIA PORT）
DC OUT：　5 V、0.7 A（最大）

消費電力	330 W
消費電力（スタンバイ状態時）	0.3 W
最大外形寸法	約 430 mm × 157.5 mm × 322 mm（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）
質量	約 8.0 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。



省エネルギー　•オートオフ機能

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

A-Z、0-9

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥ 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥ 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



(1)

Sony Corporation　Printed in Malaysia